

2006年2月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

目立った活動はなかった。

(2) 東北地方

- 2月13日に山形県庄内地方の深さ約10kmでマグニチュード(M)4.8の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

(3) 関東・中部地方

- 2月3日に茨城県沖でM5.9の地震が発生した。発震機構は北西―南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。地震発生直後の余震活動は、M5.3を最大にM5.0前後の地震が数回観測されるなど活発であったが、その後は次第に減衰してきている。
- 2月1日に千葉県北西部の深さ約100kmでM5.1の地震が発生した。発震機構はほぼ東西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部の地震である。余震は観測されていない。
- 2月16日に岐阜県美濃中西部の深さ約15kmでM4.4の地震が発生した。また、18日には、ほぼ同じ場所でM4.1の地震が発生した。余震活動は23日までに収まった。
- 東海地方のGPS観測結果に2001年から認められた長期的な変化は、最近は小さくなっているように見える。

(4) 近畿・中国・四国地方

- 2月1日に伊予灘の深さ約45kmでM4.3の地震が発生した。

(5) 九州・沖縄地方

- 2月4日に天草灘の深さ約10kmでM5.1の地震が発生した。発震機構は北北西―南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。地震発生直後から比較的規模は小さいものの活発な活動が続き、2月20日のM4.1の地震に伴い一時的に地震回数が増加したが、その後、徐々に活動は低下してきている。

(6) その他の地域

- 2月17日に父島近海でM6.0の地震が発生した。

補足

- 3月2日に和歌山県北部の深さ約5kmでM4.1の地震が発生した。

2006年2月の地震活動の評価についての補足説明

平成18年3月8日
地震調査委員会

1 主な地震活動について

2006年2月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上およびM5.0以上の地震の発生は、それぞれ74回(1月は57回)および8回(1月は4回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は2回で、2006年は2月までにこの2回のみである。

(参考) 1971-2000年の30年間の標準的な回数:

M4.0以上の月回数46回、M5.0以上の月回数8回、M6.0以上の月回数1.3回、年回数約16回

2005年2月以降 2006年1月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

- 茨城県南部 2005年2月16日 M5.4 (深さ約45km)
- 福岡県西方沖 2005年3月20日 M7.0 (深さ約10km)
- 千葉県北東部 2005年4月11日 M6.1 (深さ約50km)
- 熊本県天草芦北地方 2005年6月3日 M4.8 (深さ約10km)
- 新潟県中越地方 2005年6月20日 M5.0 (深さ約15km)
- 千葉県北西部 2005年7月23日 M6.0 (深さ約75km)
- 宮城県沖 2005年8月16日 M7.2 (深さ約40km)
- 新潟県中越地方 2005年8月21日 M5.0 (深さ約15km)
- 茨城県沖 2005年10月19日 M6.3 (深さ約50km)
- 三陸沖 2005年11月15日 M7.2 (補足説明3参照)

2 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

「2月13日に山形県庄内地方の深さ約10kmでマグニチュード(M)4.8の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。」:

この付近では、昨年11月頃から微小な地震が発生しており、今回の地震に伴い一時活発化した、徐々に活動は低下してきている。

(3) 関東・中部地方

「東海地方のGPS観測結果に2001年から認められた長期的な変化は、最近小さくなっているように見える。」:

GPS観測結果によれば、東海地方から中部地方にかけての太平洋側は、フィリピン海プレートの北西方向への沈み込みなどにより、西北西にほぼ一定速度で移動していたが、2001年4月頃から、静岡県西部を中心とする地域の移動について、変化している傾向が見られる。最近はこの長期的な変化は、小さくなっているように見える。

(なお、これは、2月27日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考) 最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動(平成18年2月27日気象庁地震火山部)

「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近小さくなっているように見えます。」

関東・中部地方では他に次の地震活動があつた。

- 2月19日頃から伊豆半島東方沖で小規模な地震活動が始まった。地震活動とともに、周辺の傾斜計、歪計等に地殻変動が観測された。また、GPS観測結果では、1月から2月にかけて周

辺の基線でごくわずかな伸びが観測された。これまでの最大の地震は M2.8（最大震度 2）である。伊豆半島東方沖では、1 月 25 日から 31 日にかけて小規模な地震活動が発生している。

（４）近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

（５）九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

３ 2005 年 11 月 15 日に発生した三陸沖の地震のマグニチュード変更について

2005 年 11 月 15 日に発生した三陸沖の地震のマグニチュードは、「2005 年 11 月の地震活動の評価」以降これまで 7.1 としていたが、精査の結果、7.2 に修正する。

参考 1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

M6.0 以上のもの。または、M4.0 以上（海域では M5.0 以上）の地震で、かつ、最大震度が 3 以上のもの。

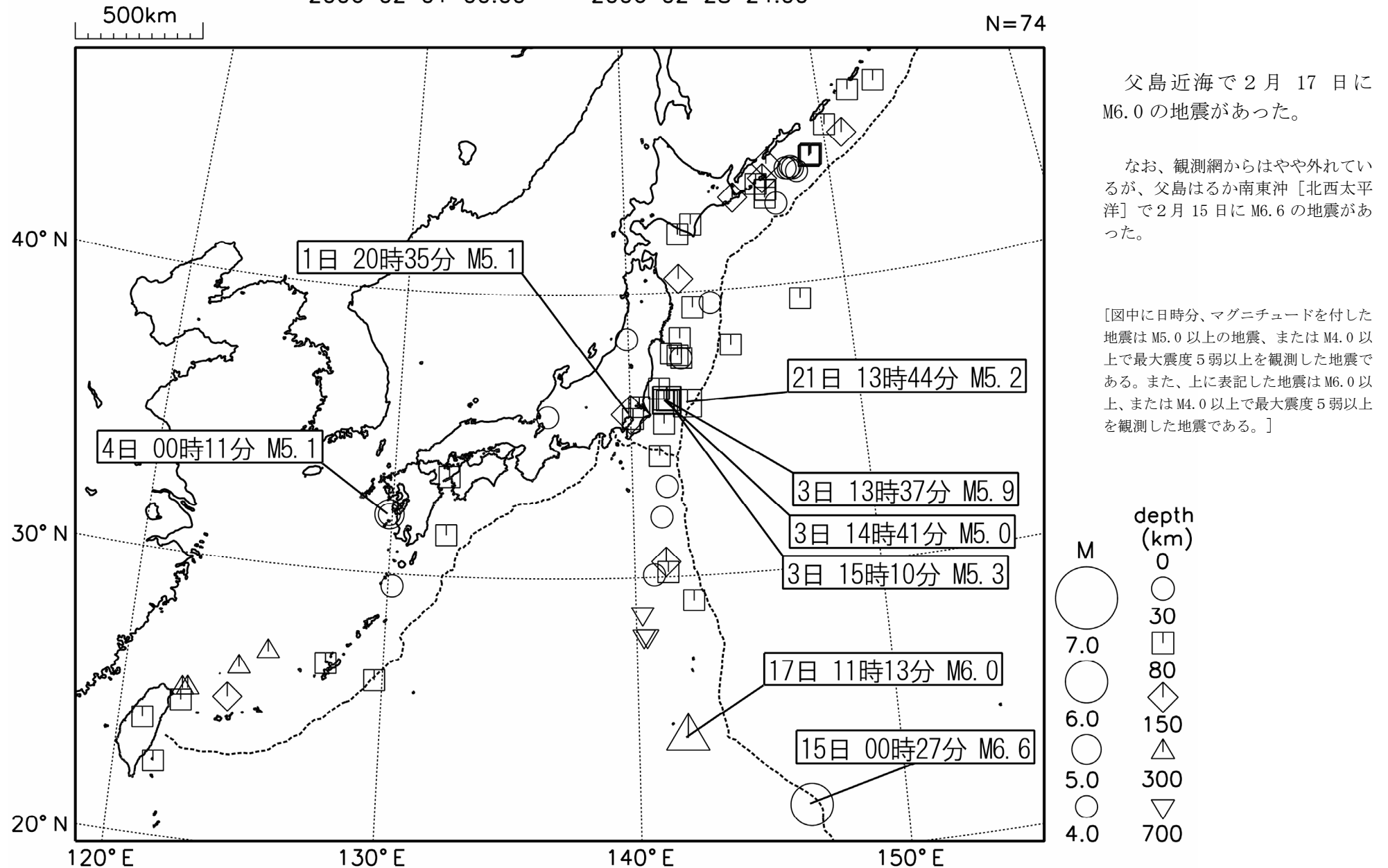
参考 2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2006 年 2 月の全国の地震活動（マグニチュード 4.0 以上）

2006 02 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

N=74

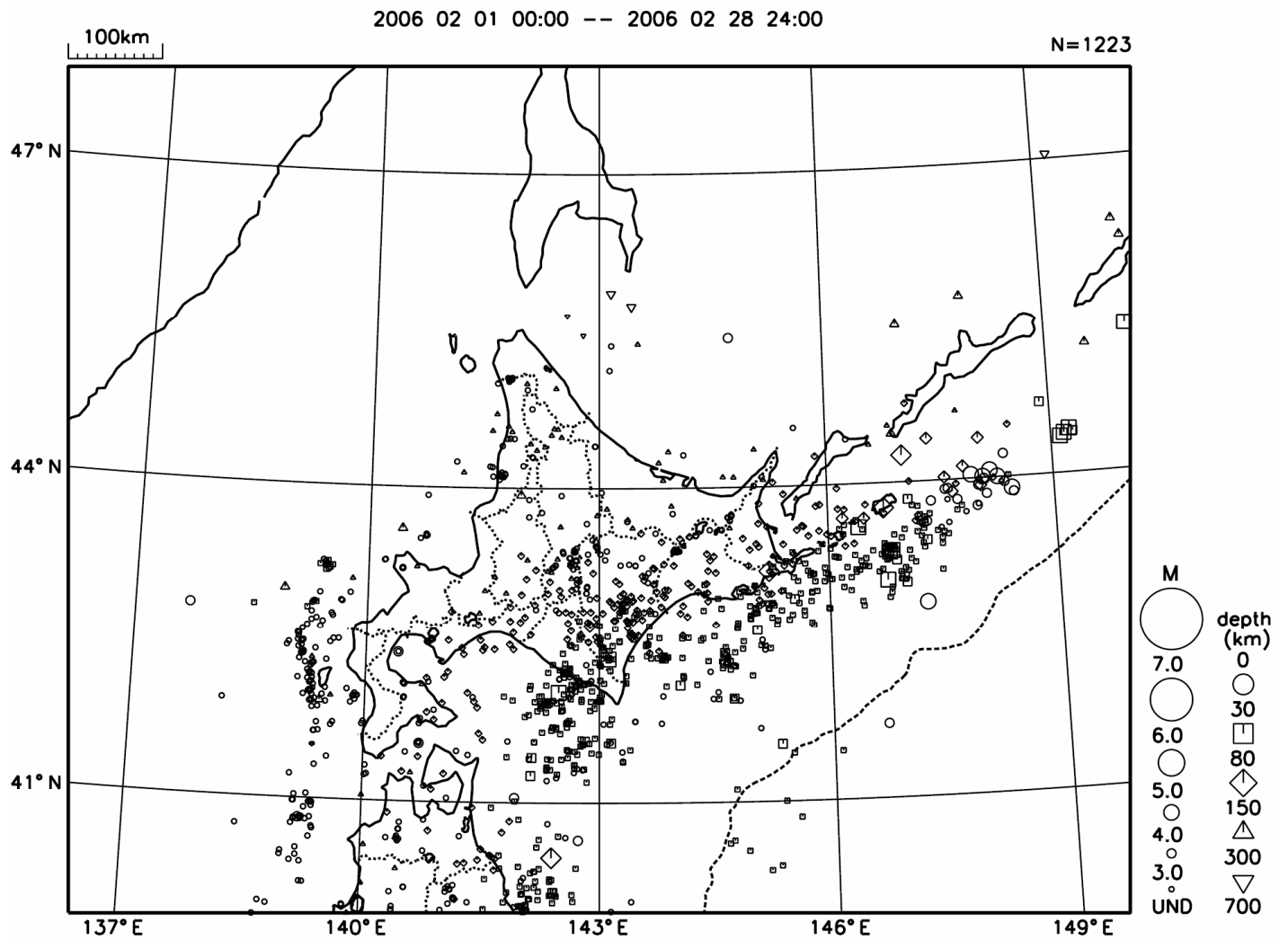


父島近海で 2 月 17 日に M6.0 の地震があった。

なお、観測網からはやや外れているが、父島はるか南東沖〔北西太平洋〕で 2 月 15 日に M6.6 の地震があった。

〔図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。〕

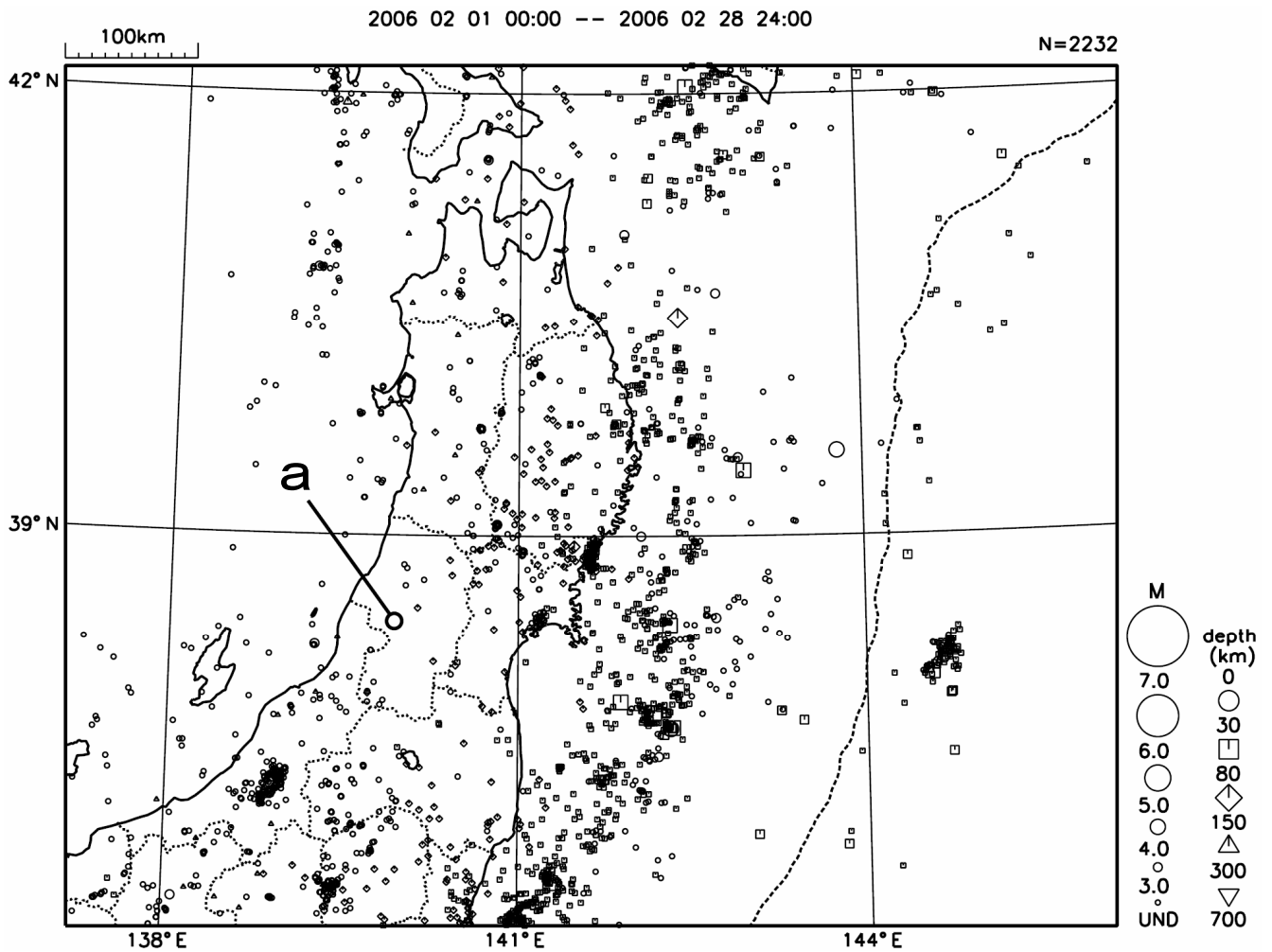
北海道地方



特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

東北地方



a) 2月13日に山形県庄内地方でM4.8（最大震度3）の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

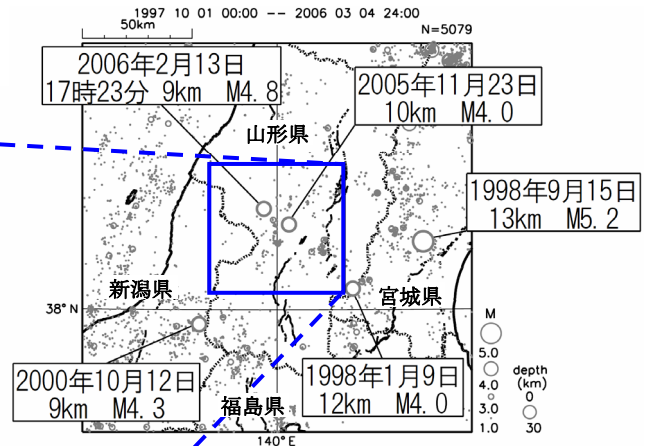
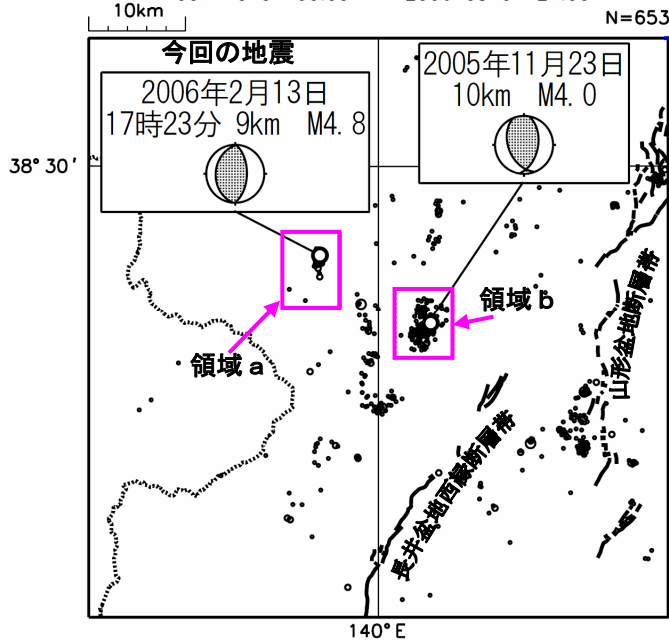
2月13日 山形県庄内地方の地震

A

震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 1.0$ ）

発震機構はP波初動解

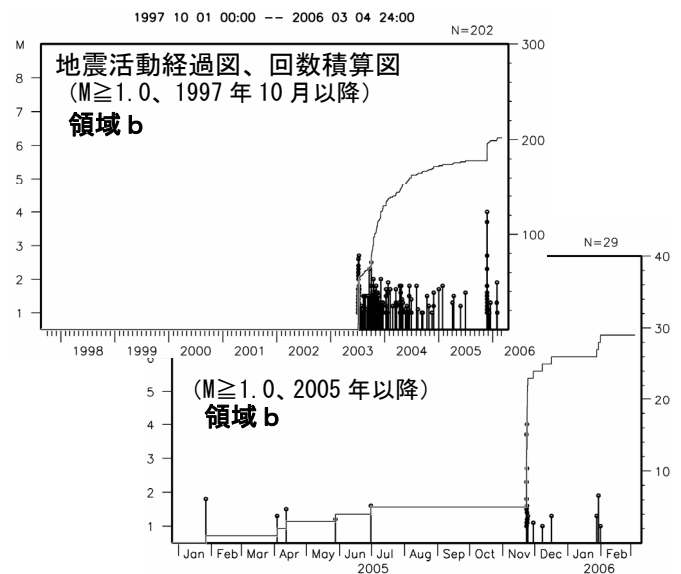
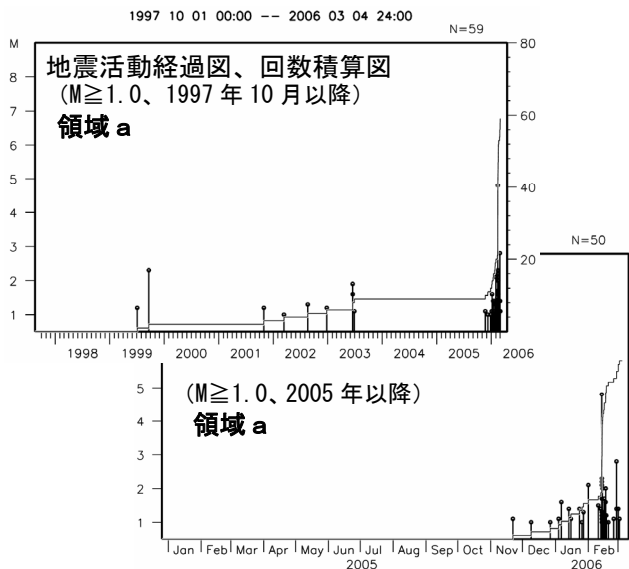
1997 10 01 00:00 -- 2006 03 04 24:00



2006年2月13日17時23分に山形県庄内地方の深さ9kmでM4.8（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

この付近では、2005年11月頃から、地震活動がやや活発化した様子が見られる。

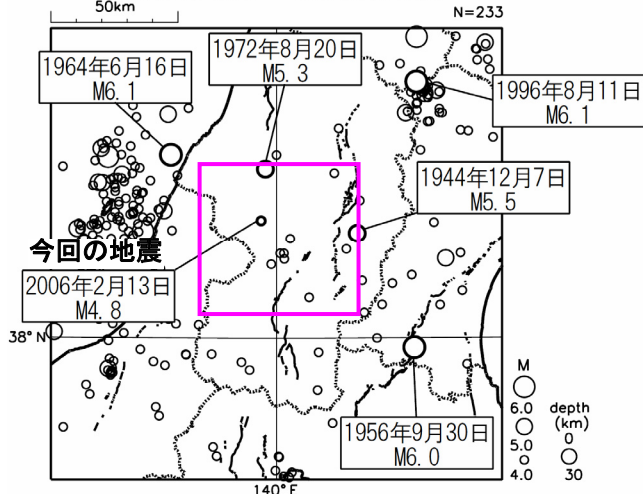
(A)



B

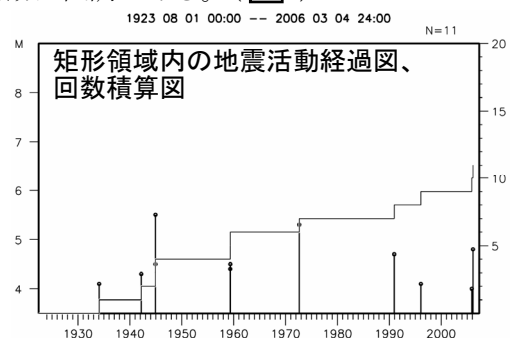
震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

1923 08 01 00:00 -- 2006 03 04 24:00

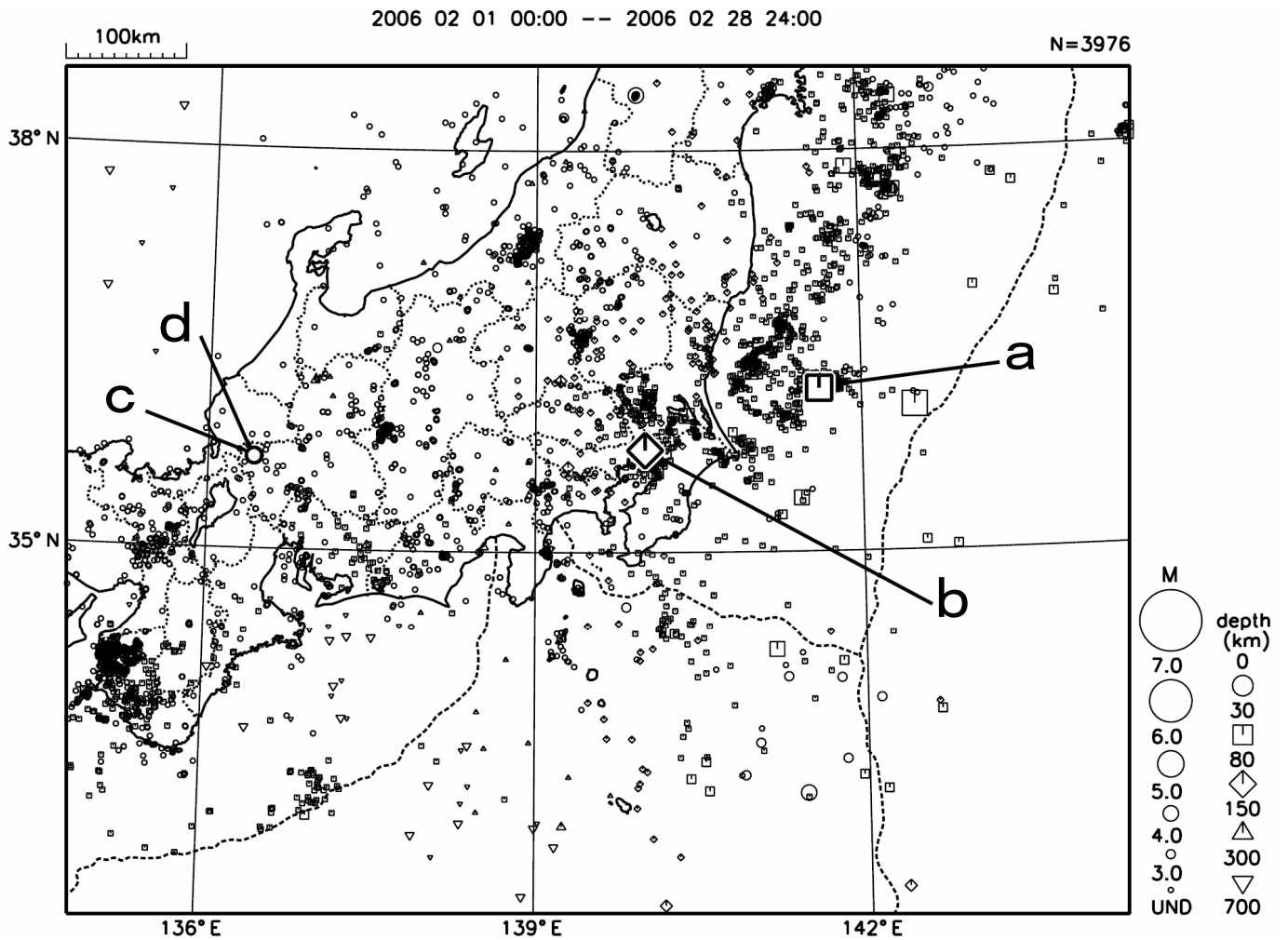


1923年8月以降の活動を見ると、この付近では、東側で1944年12月7日にM5.5、北側で1972年8月20日にM5.3の地震が発生しているが、活動は低調である。

(B)



関東・中部地方

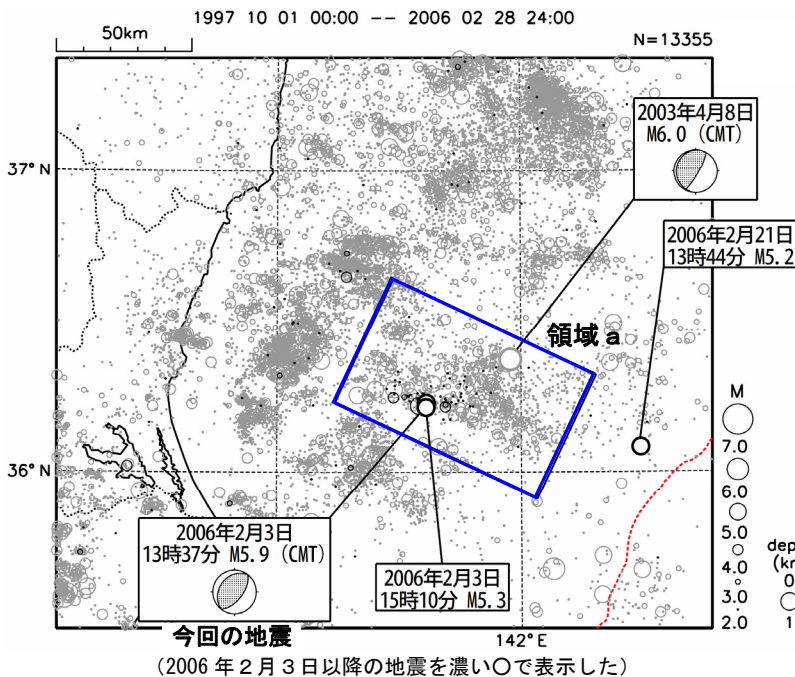


- a) 2月3日に茨城県沖でM5.9（最大震度3）の地震があった。
- b) 2月1日に千葉県北西部でM5.1（最大震度4）の地震があった。
- c) 2月16日に岐阜県美濃中西部でM4.4（最大震度4）の地震があった。
- d) 2月18日に岐阜県美濃中西部でM4.1（最大震度4）の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月3日 茨城県沖の地震

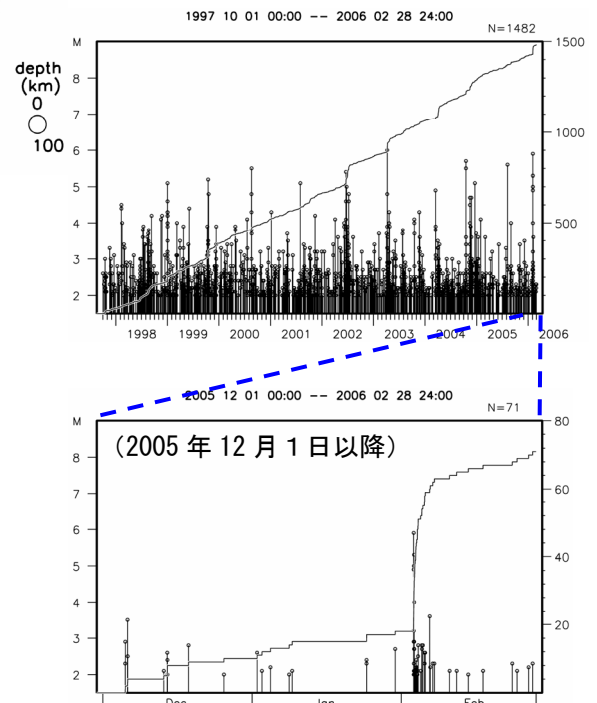
A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）



2006年2月3日13時37分に茨城県沖でM5.9（最大震度3）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。余震活動は、3日15時10分にM5.3（最大震度2）の地震が発生するなど、本震の直後にM5.0前後の地震が4回発生したが、その後次第に減衰してきている。今回の地震の震源付近では、M5.0~6.0クラスの地震が年に1回程度発生している。

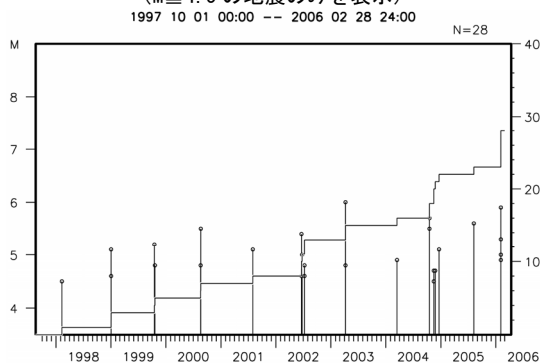
（**A**）

領域a内の地震活動経過図、回数積算図

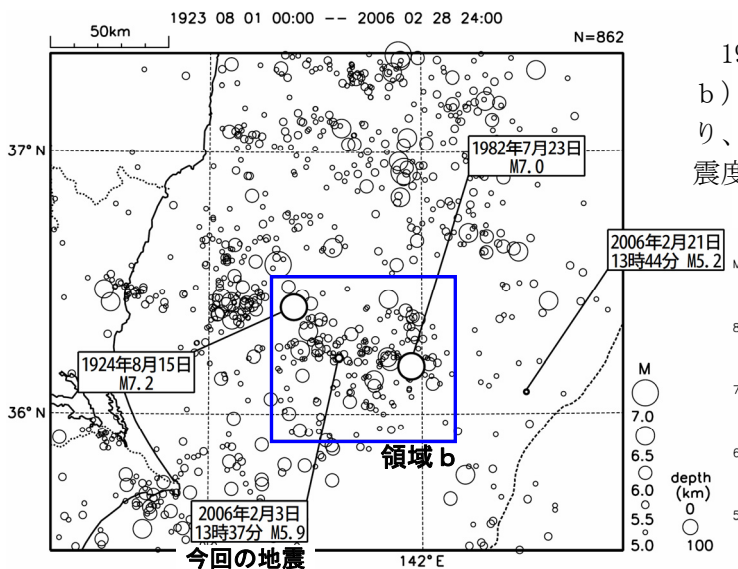


領域a内の地震活動経過図、回数積算図

（ $M \geq 4.5$ の地震のみを表示）

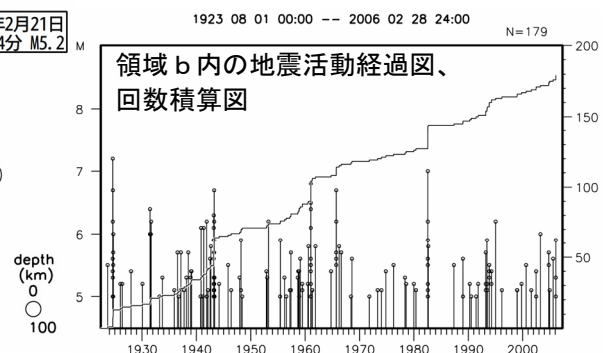


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



1923年以降、今回の地震の震央付近（領域b）ではM7.0以上の地震が2回観測されており、最近では1982年7月23日にM7.0（最大震度4）の地震が発生している。（**B**）

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



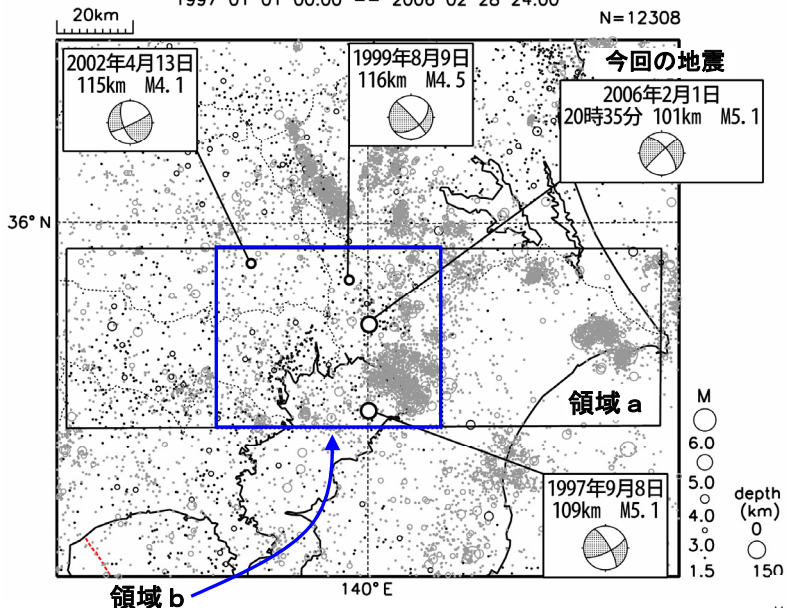
2月1日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (1997 年 1 月以降、 $M \geq 1.5$)

(太平洋プレート二重地震面の下面の地震を濃く表示)

1997 01 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

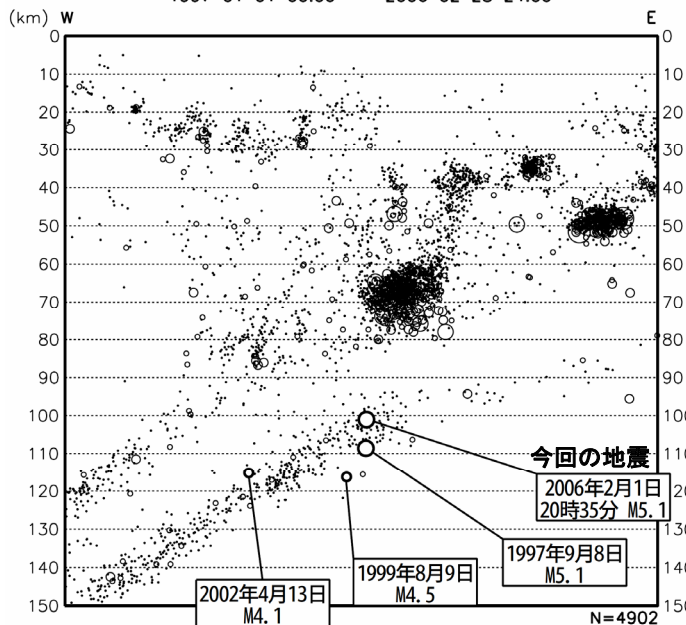
N=12.308



2006 年 2 月 1 日 20 時 35 分に千葉県北西部の深さ 101km で M5.1（最大震度 4）の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型であり、太平洋プレート内（二重地震面の下面）で発生した地震である。余震は発生していない。付近の二重地震面の下面の地震としては、1997 年 9 月 8 日に M5.1（最大震度 3）の地震が発生している。（**A**）

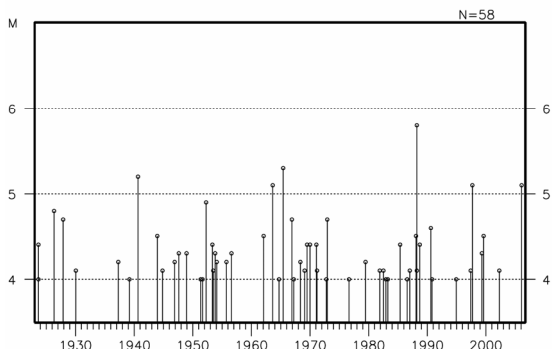
領域 a 内の東西断面図

1997 01 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00



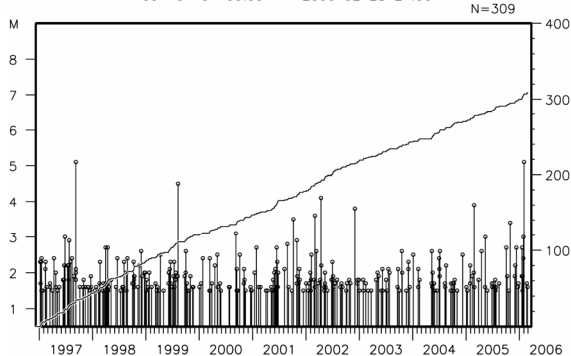
領域 c 内の地震活動経過図

1923 08 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図
(二重地震面の下面の地震のみ)

1997 01 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

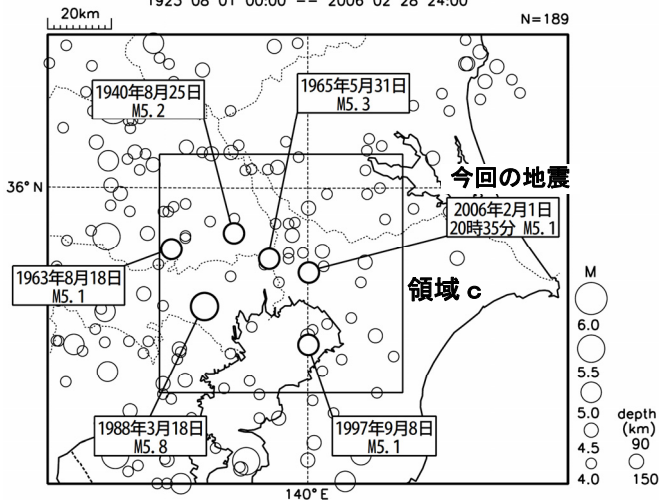


[B] 震央分布図

(1923 年 8 月以降、深さ 90~150km、 $M \geq 4.0$)

1923 08 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

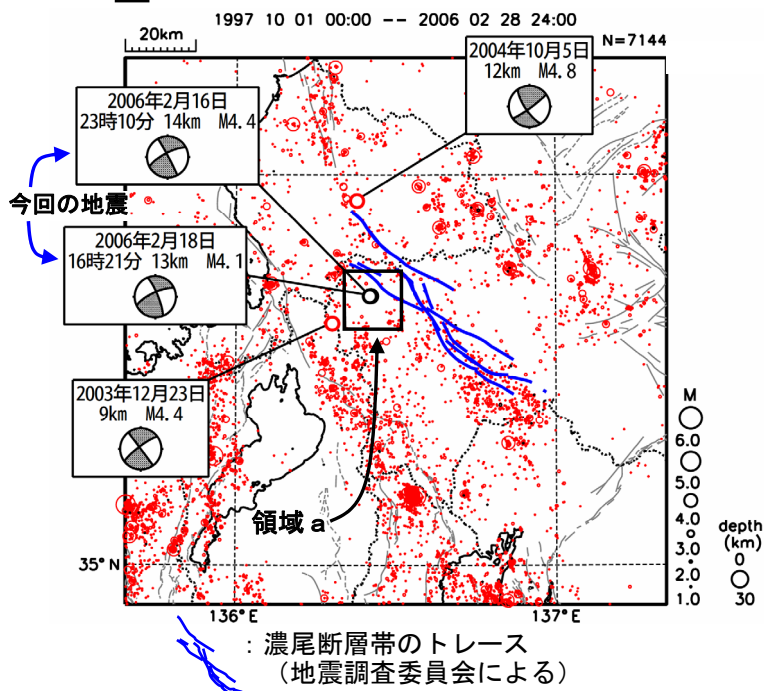
N=189



1923 年 8 月以降、今回の地震の震源付近では M5.0 以上の地震が 6 回観測されている。最大は、1988 年 3 月 18 日の M5.8（最大震度 4）の地震である。（ B ）

2月16日、18日 岐阜県美濃中西部の地震

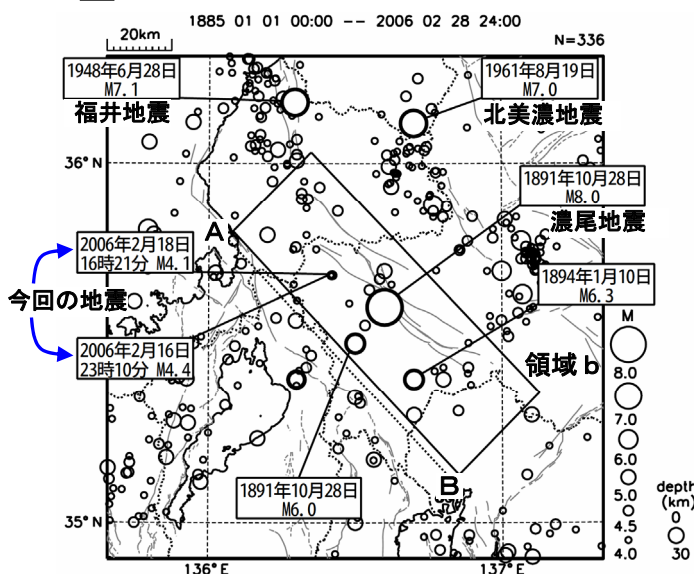
A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.0$)



2006年2月16日23時10分に岐阜県美濃中西部の深さ14kmで $M4.4$ (最大震度4) の地震が発生した。余震活動は低調であったが、18日16時21分にも $M4.1$ (深さ13km、最大震度4) の地震が発生した。発震機構はいずれも西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、付近では良く見られるタイプである。

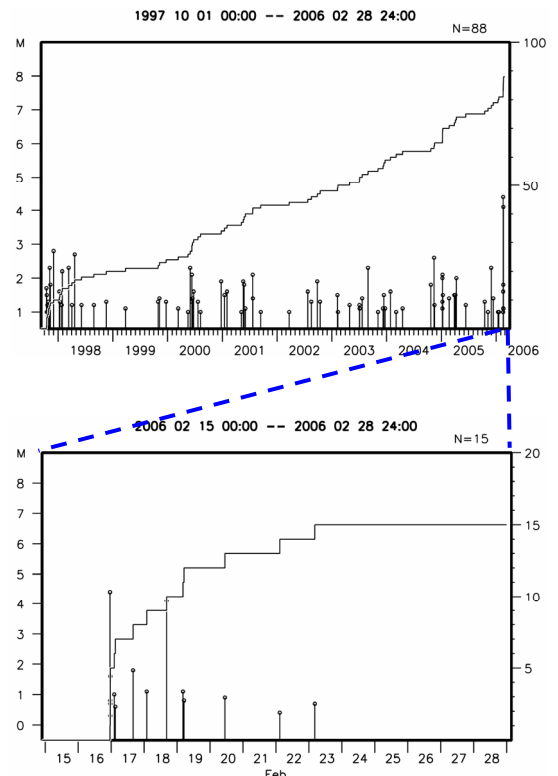
今回の地震の震源付近には濃尾断層帯がある。 **A** ()

B 震央分布図 (1885年以降、 $M \geq 4.0$)



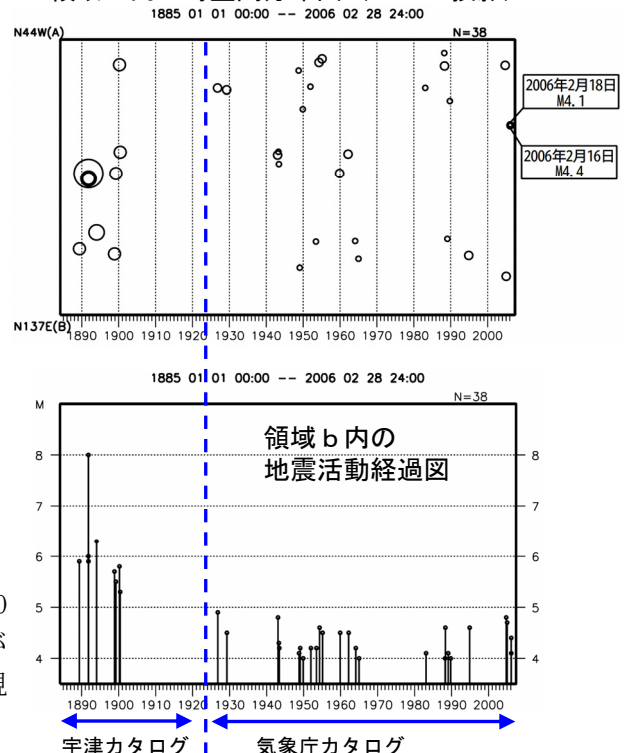
今回の地震の震央付近では、1891年10月28日に $M8.0$ の地震 (濃尾地震) が発生するなど、 $M6.0$ 以上の地震が3回発生しているが、1923年以降では、 $M5.0$ を超える規模の地震は発生していない。 (**B**)

領域a内の地震活動経過図、回数積算図



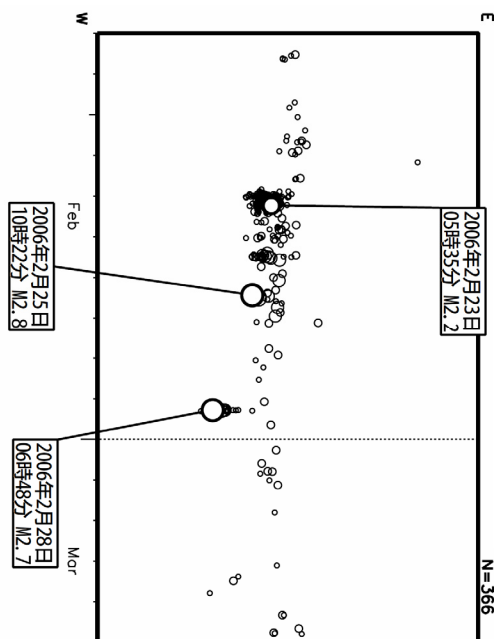
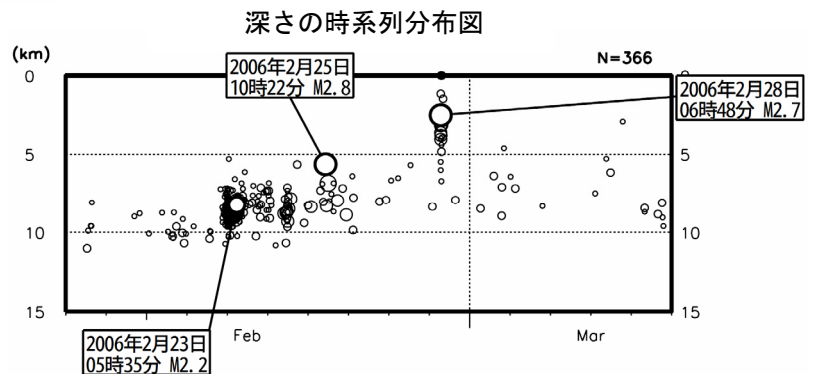
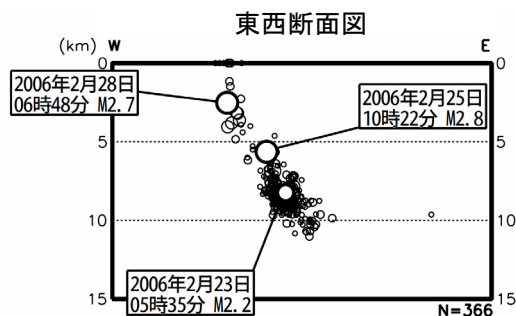
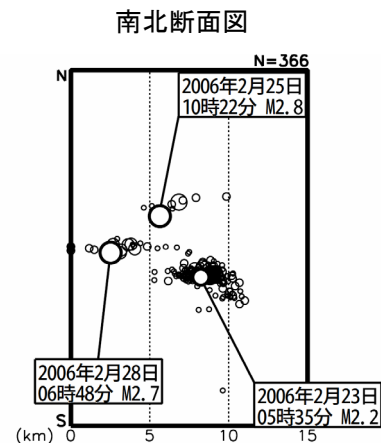
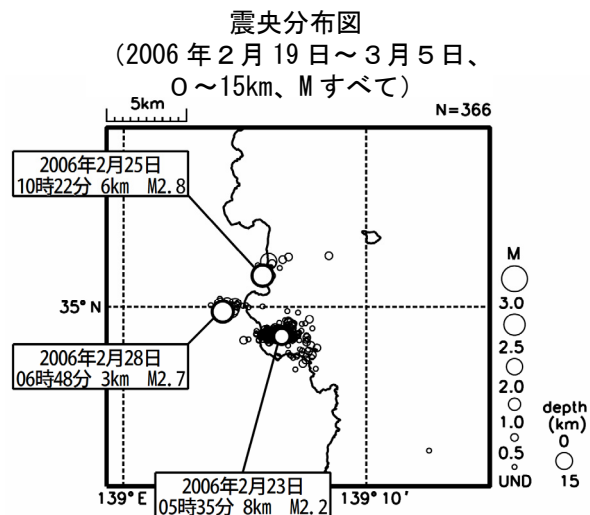
余震活動の状況
(2月15日~28日、 M すべて)

領域b内の時空間分布図 (A-B投影)

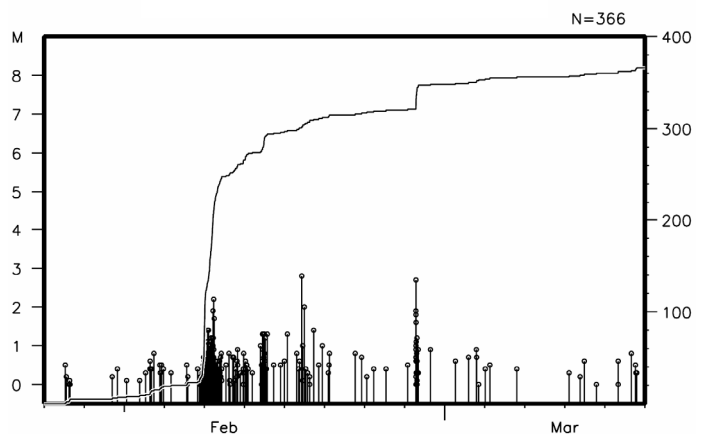


伊豆半島東方沖の地震活動

2006年2月19日頃から伊豆半島東方沖で小規模な地震活動が始まり、21日から断続的に活発化した。この間、東伊豆の気象庁体積歪計に 8×10^{-8} 程度の縮み変化が現れた。これまでの最大の地震は25日10時22分に発生したM2.8（最大震度2）の地震である。28日には5km以浅での活動が一時的に活発化し、06時48分にM2.7（最大震度2）の地震が発生している。一連の活動は3月2日に収まった。本地域では先月25日から31日にもまとまった活動（M1.1の地震が最大）が発生している。

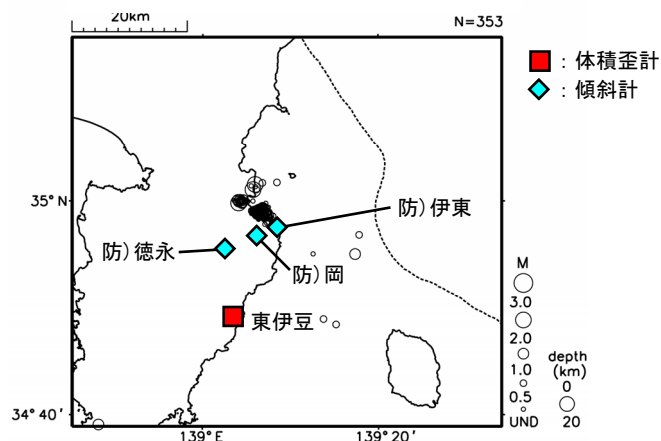


地震活動経過図、回数積算図

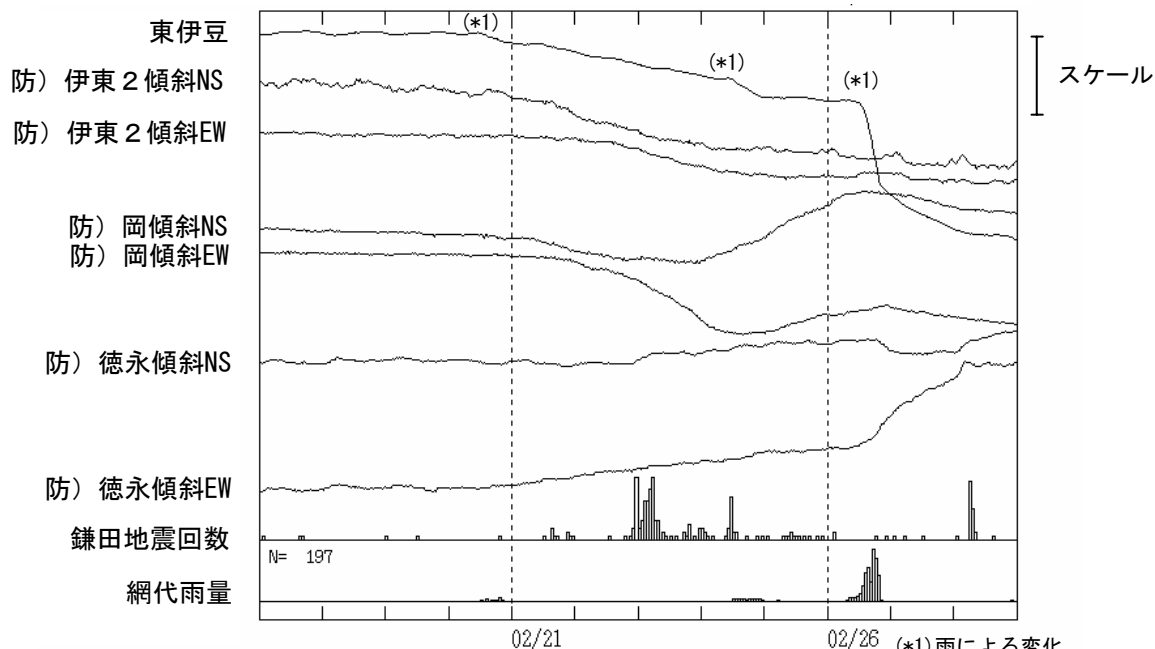


伊豆半島東方沖の地震活動に伴う歪計および傾斜計の変化

歪計および傾斜計の位置と震央分布図



歪計および傾斜計の変化と鎌田の地震回数
(2006年2月17日～28日)



歪計および傾斜計の変化のグラフにおいて、縦軸のスケールは、 10^{-7} (歪)、 5×10^{-7} (傾斜)、20回/時間 (地震回数)、50mm/時間 (雨量) を示す。

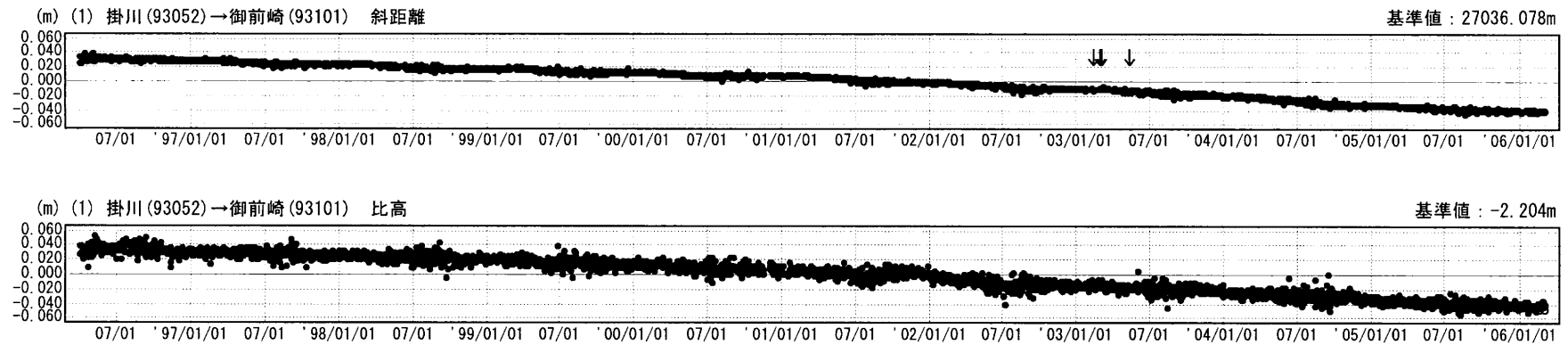
地点	今回 (2/21 12時 ～ 2/26 10時) の変化量		
	2/21 12時 ～22日 21時	22日 21時 ～26日 10時	計
東伊豆 LP	-2.4×10^{-8}	-5.2×10^{-8}	-7.6×10^{-8}
防) 伊東 2 傾 NS	-1.4×10^{-7}	-0.8×10^{-7}	-2.2×10^{-7}
防) 伊東 2 傾 EW	-0.6×10^{-7}	-2.0×10^{-7}	-2.6×10^{-7}
防) 岡 傾 NS	-1.3×10^{-7}	$+4.3 \times 10^{-7}$	$+3.0 \times 10^{-7}$
防) 岡 傾 EW	-1.3×10^{-7}	-2.6×10^{-7}	-3.9×10^{-7}

※ 2月26日10時以降は雨の影響を大きく受けているため、変化量には加えていない。

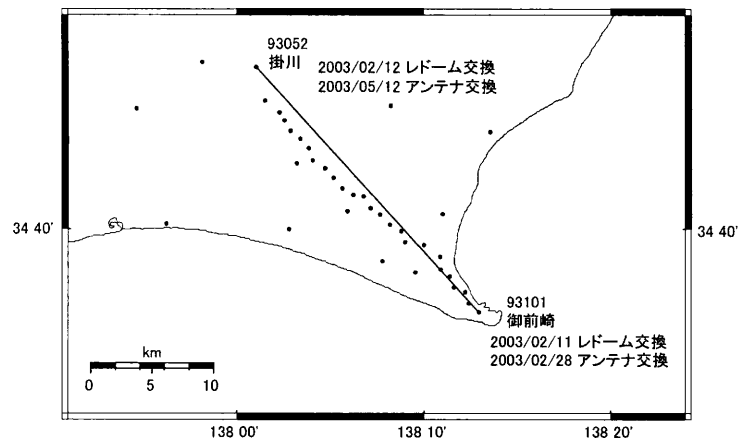
観測点名に「防)」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。鎌田地震回数は、鎌田観測点のS-P時間が6秒以下で上下動速度振幅が一定振幅以上の地震の数を表す。

掛川－御前崎間のGPS連続観測結果(斜距離・比高)

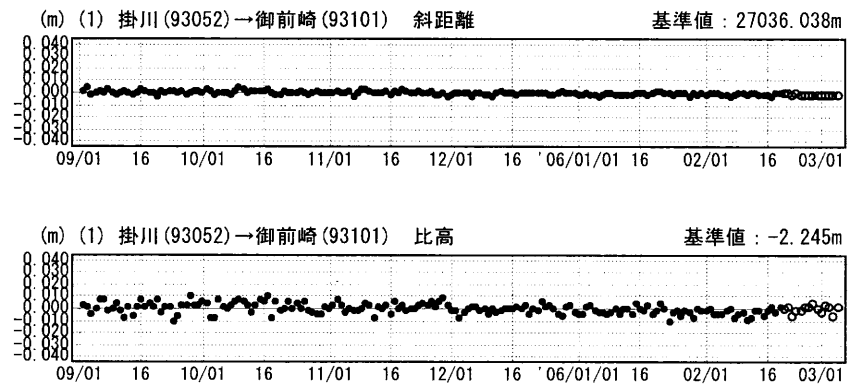
期間：1996/04/01～2006/03/04 JST



掛川・御前崎 GPS連続観測基線図



期間：2005/09/01～2006/03/04 JST



●---[F2:最終解] ○---[R2:速報解] ↓アンテナ交換等

掛川・御前崎周辺の基線には
特段の変化は見られない。

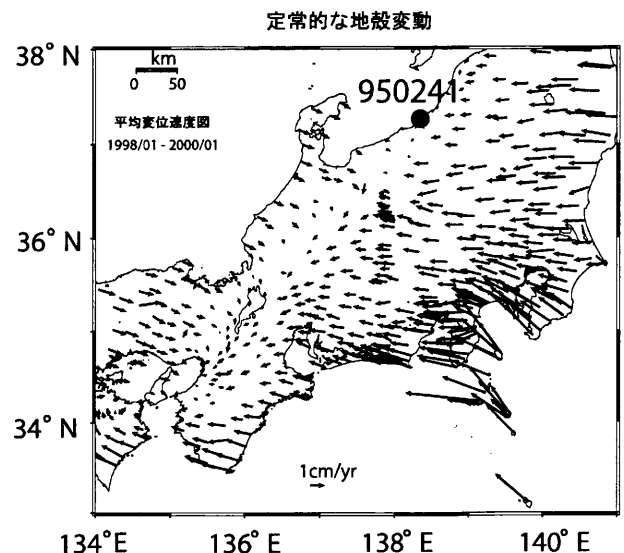
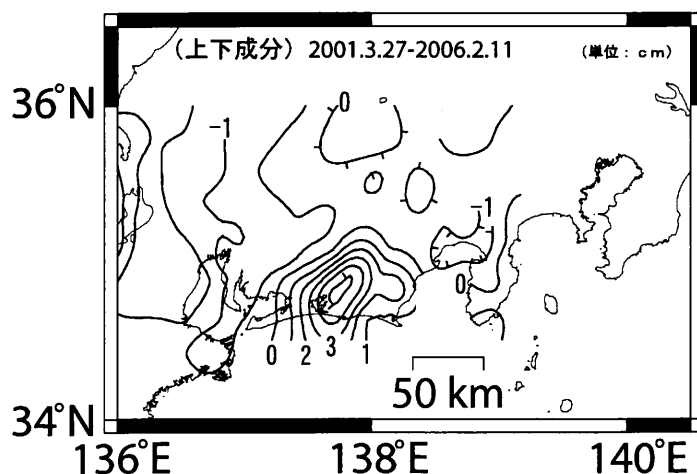
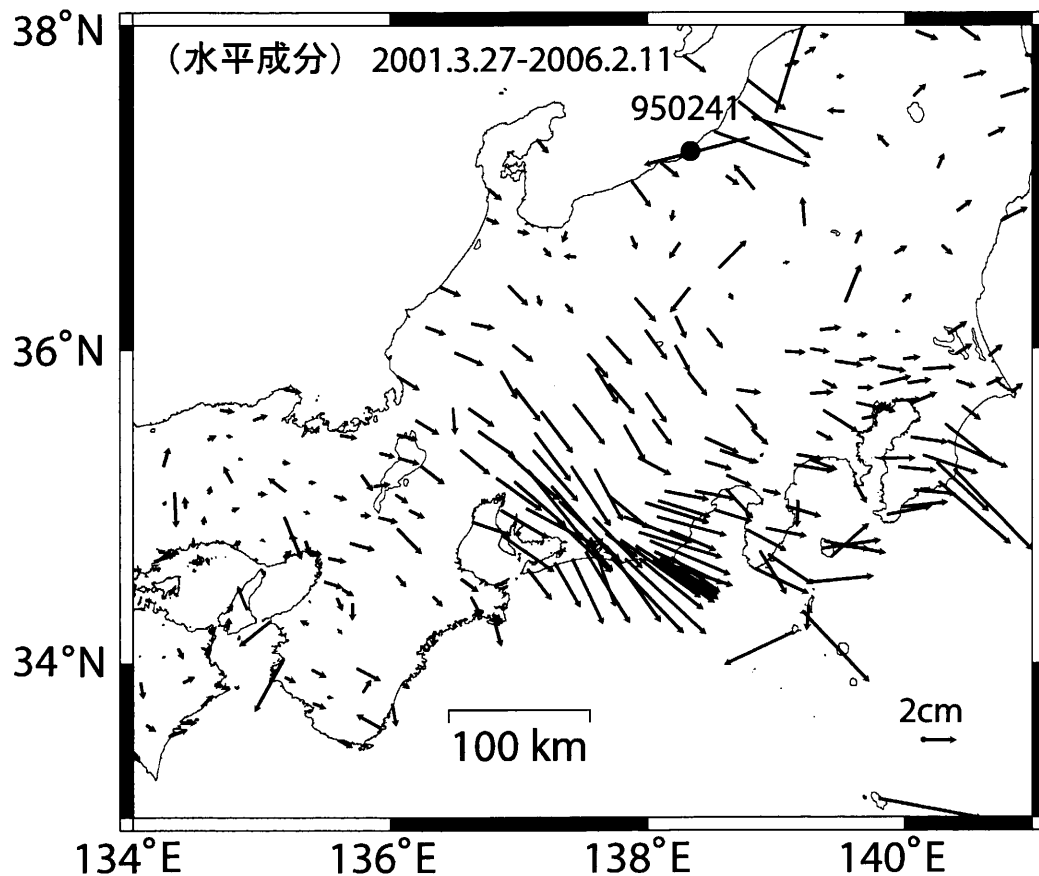
平均的な地殻変動からのずれ（最終解）

○平均的な変動として、1998年1月～2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、時系列データから除去している。

○2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。

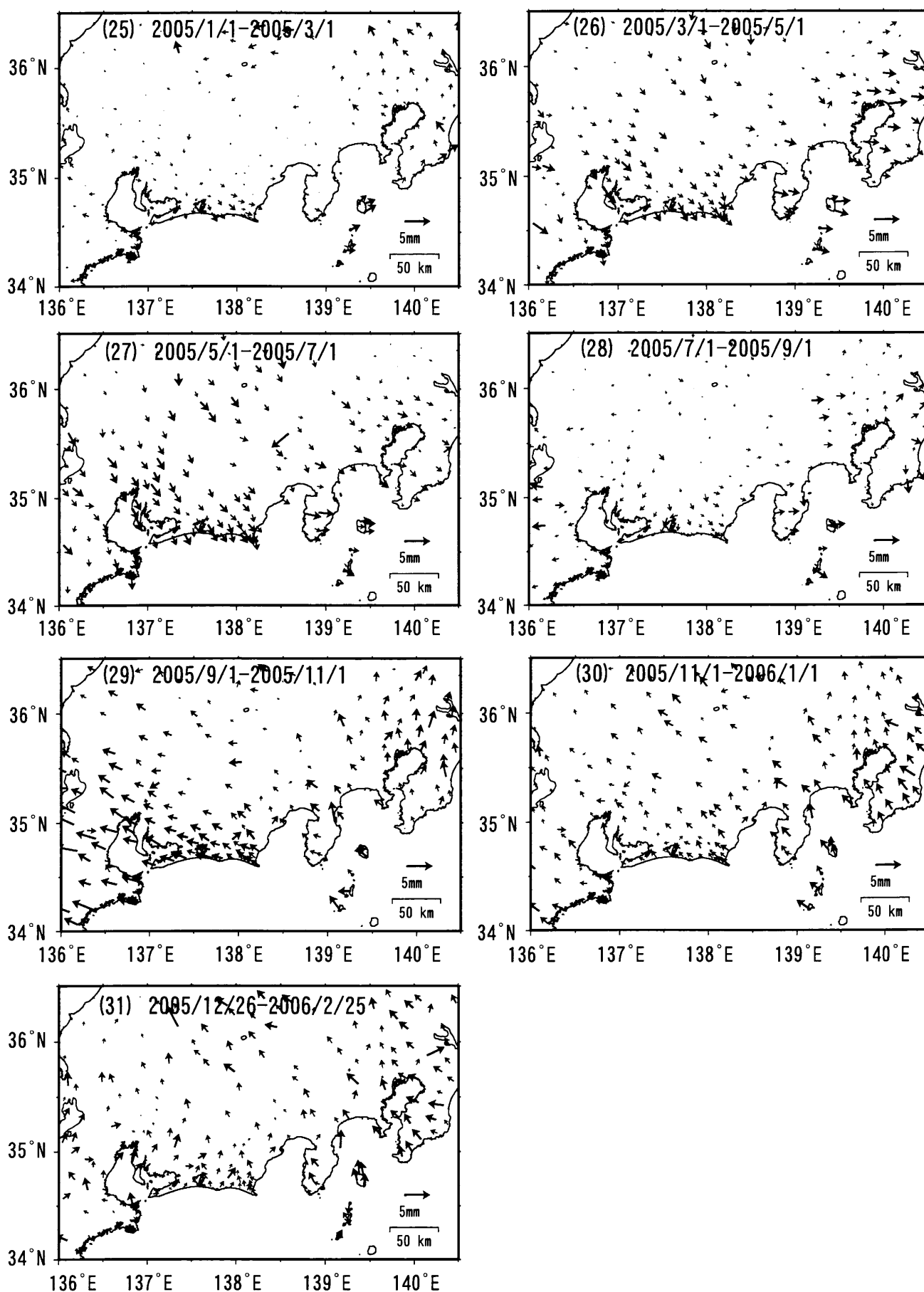
○2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。

○2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。

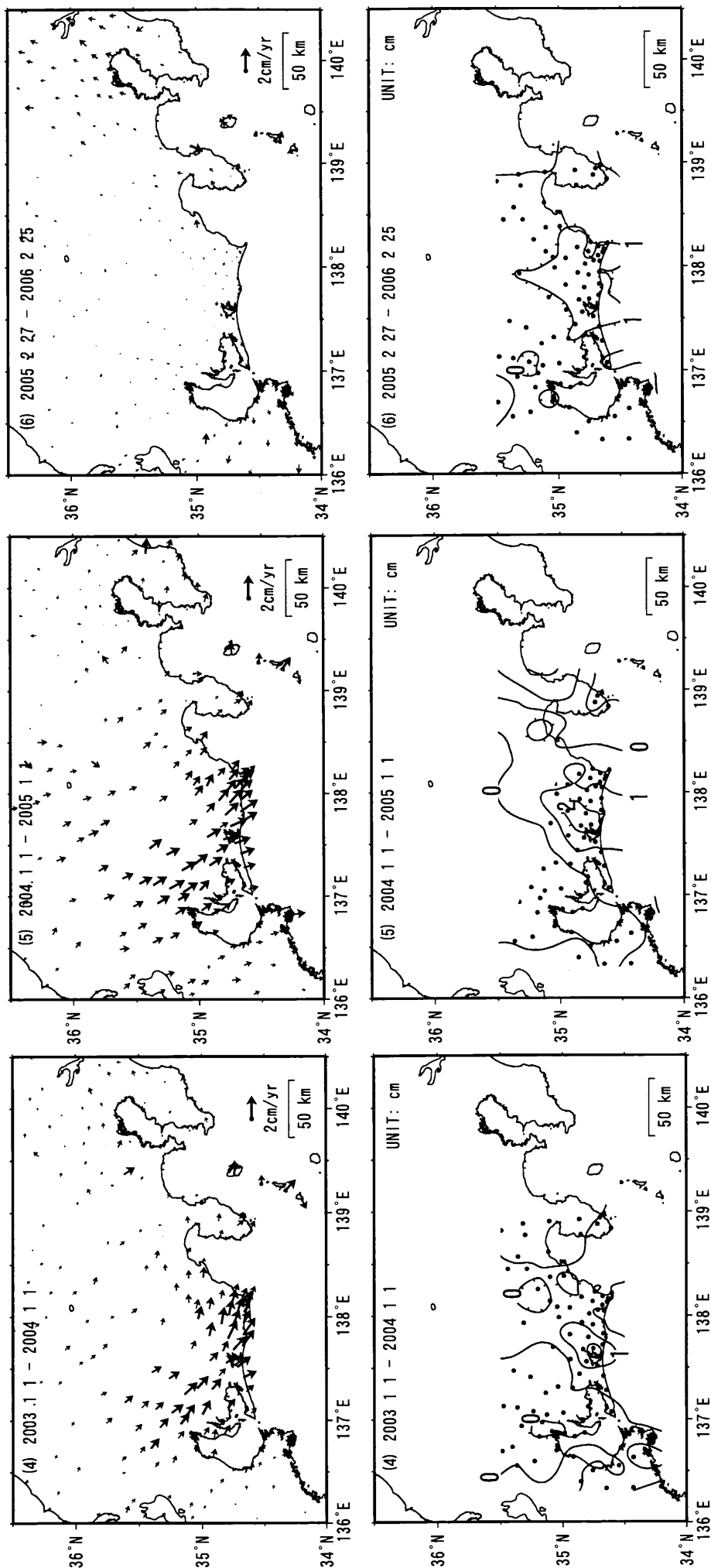


東海地殻変動（４）大潟固定

○下図の期間の平均的な変動からのずれの時系列データに直線をあてはめて、異常変動の平均速度を求めて示している。



1年間で見た東海非定常地殻変動（2）大潟固定



(5) は、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震および同年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響を取り除いています。2004年9月～2005年初めのデータに余効変動の影響が含まれると考えられます。

東海地方の地殻変動 (3)

1997.01.01-2006.02.11

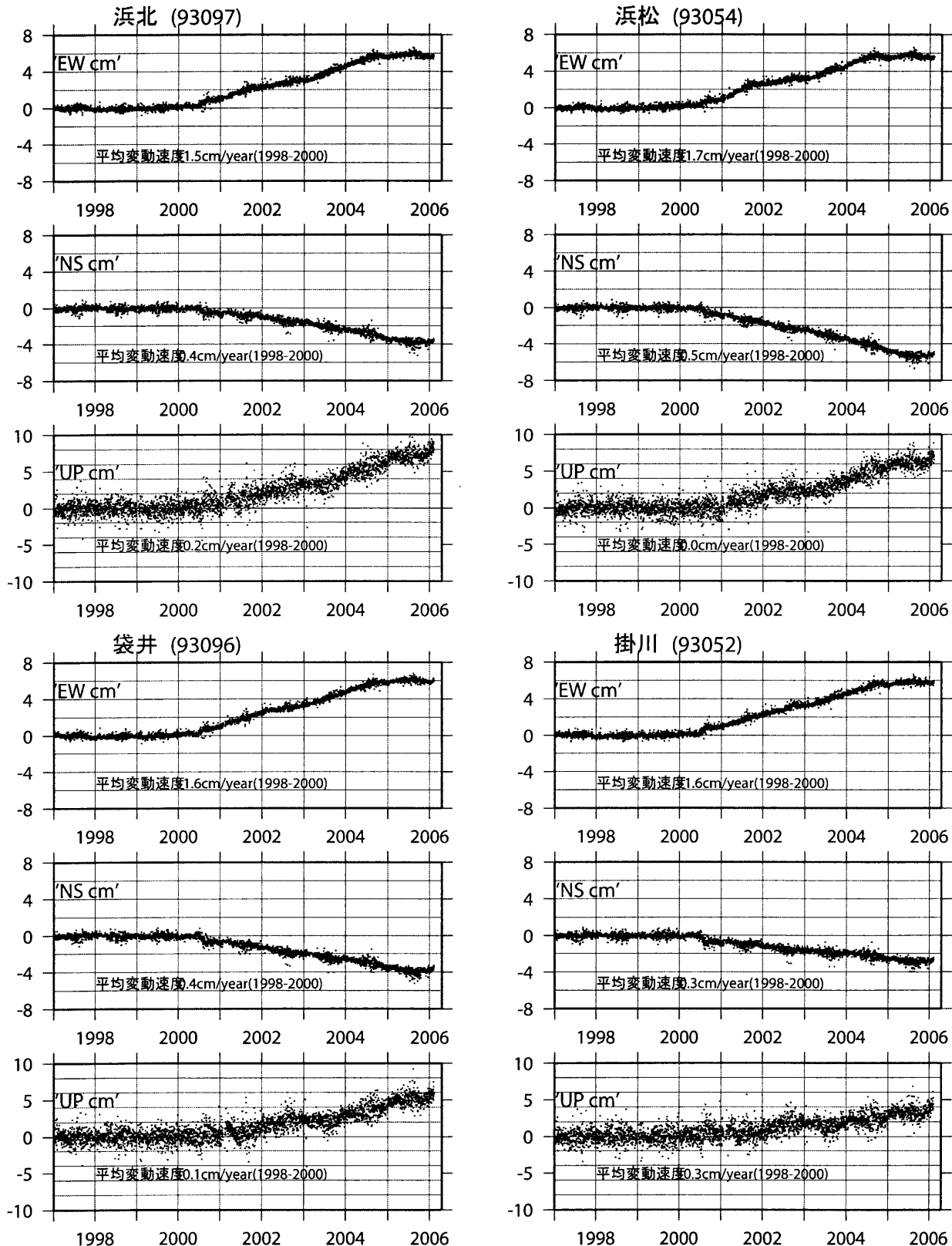
2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、全体の期間から取り除いている。

2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。

2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。

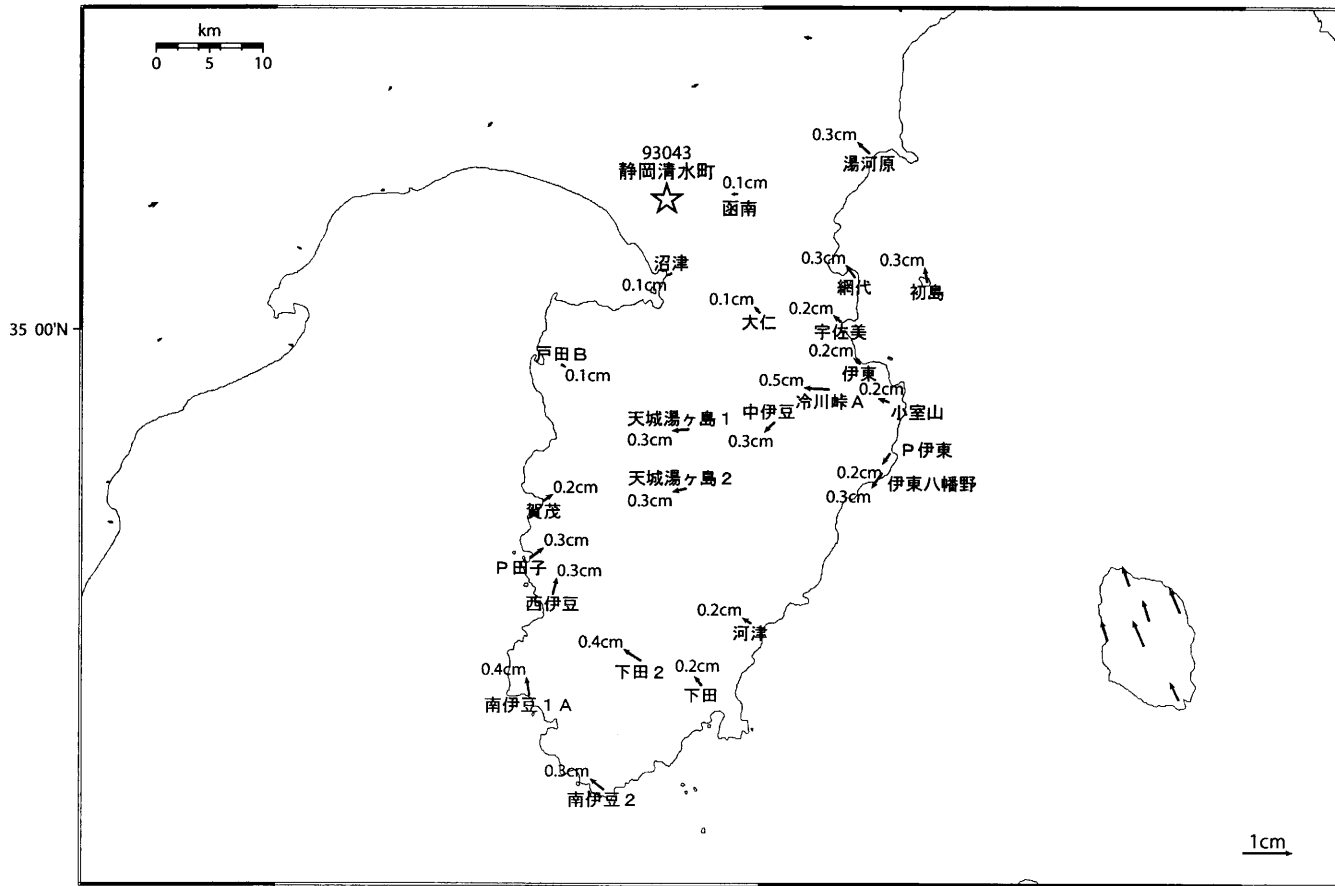
2004年9月から2005年初頭までは、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震の余効変動の影響が含まれると考えられる。



伊豆半島東部の地殻変動

基準期間：2005/12/21-2006/01/04

比較期間：2006/02/14-2006/02/28



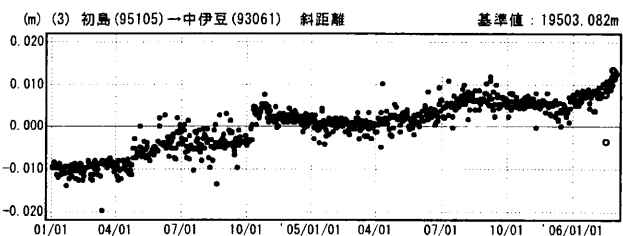
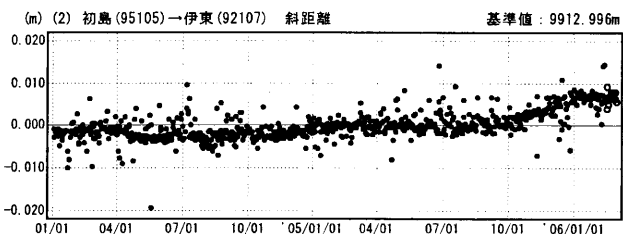
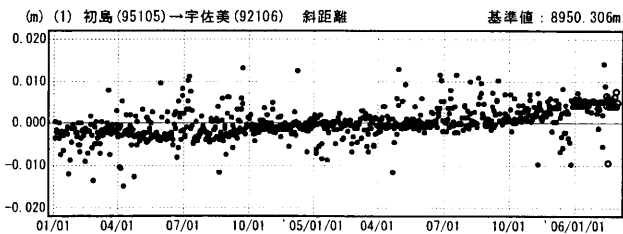
138 30'E
[F2最終解+R2速報解]

139 00'E

139 30'E
☆固定局：静岡清水町（93043）
国土地理院

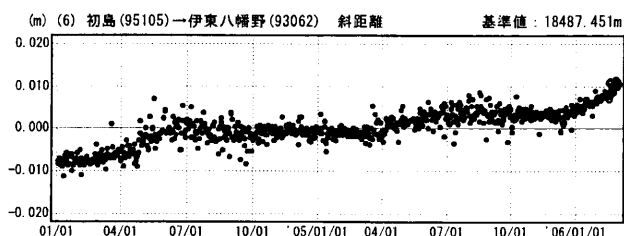
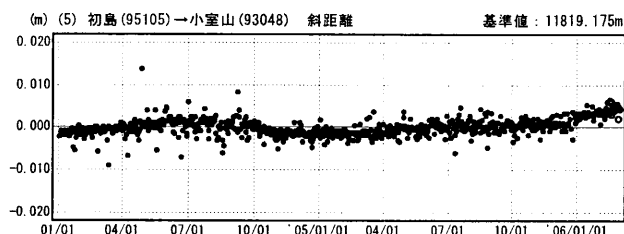
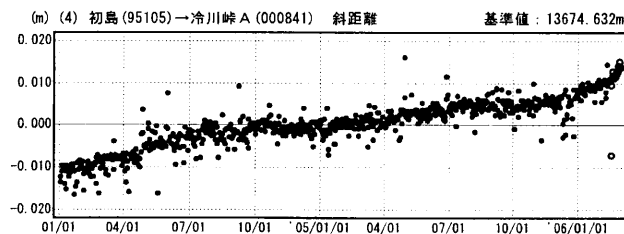
基線変化グラフ

期間：2004/01/01~2006/02/28 JST



基線変化グラフ

期間：2004/01/01~2006/02/28 JST



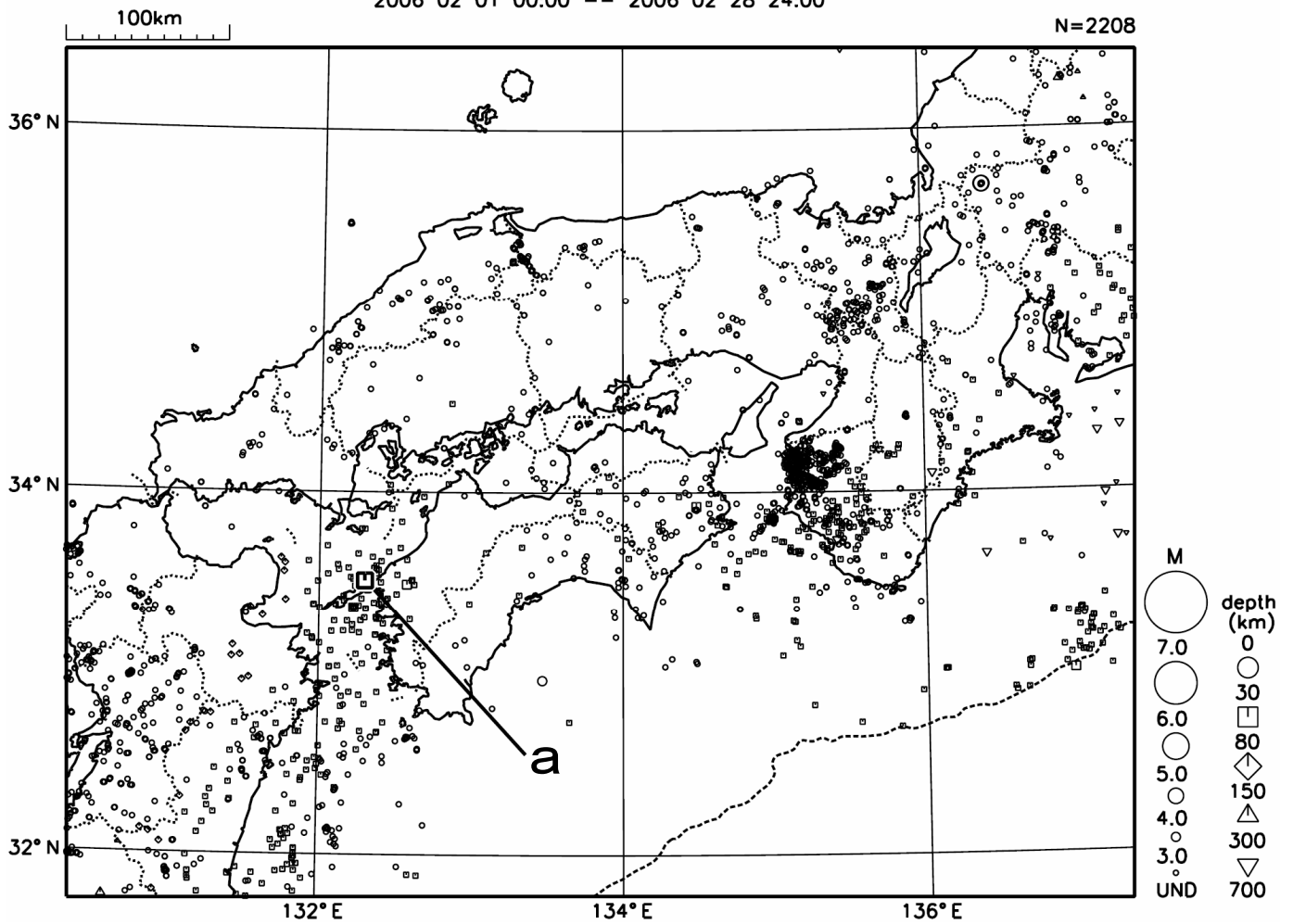
● — [F2:最終解] ○ — [R2:速報解]

国土地理院

近畿・中国・四国地方

2006 02 01 00:00 -- 2006 02 28 24:00

N=2208



a) 2月1日12時15分に伊予灘でM4.3(最大震度3)の地震があった。

(上記期間外)

3月2日23時28分に和歌山県北部でM4.1(最大震度3)の地震があった。

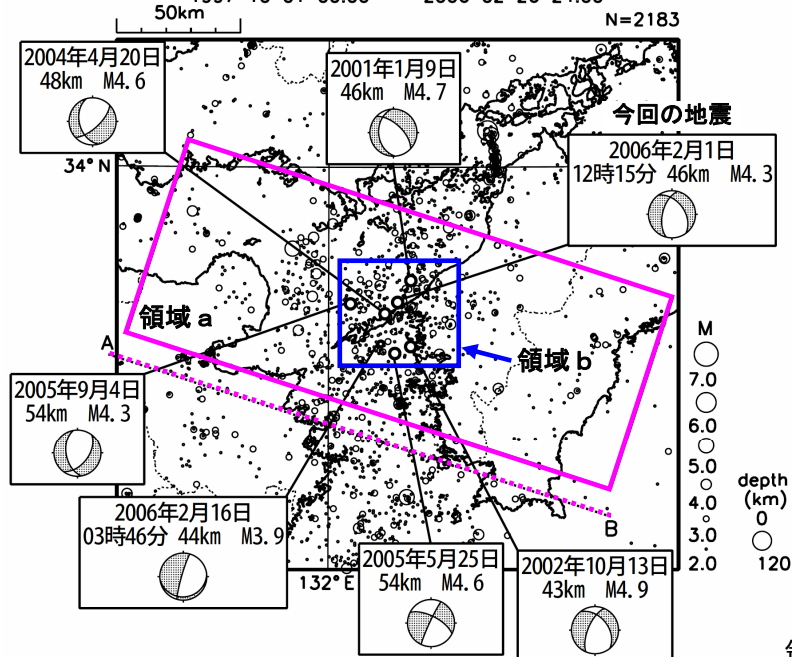
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月1日 伊予灘の地震

A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）

発震機構は全てP波初動解

1997 10 01 00:00 -- 2006 02 26 24:00



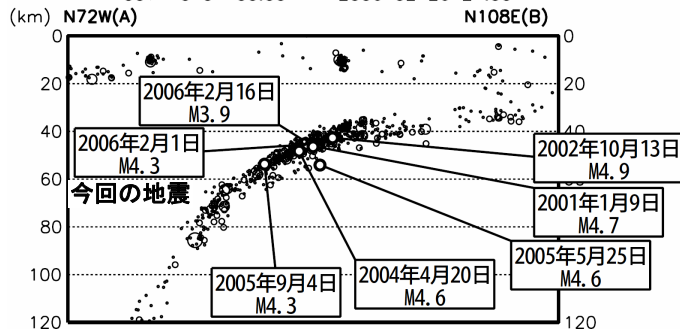
2006年2月1日12時15分に伊予灘の深さ46kmでM4.3（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部の地震である。M1.0程度のごく小さな余震が数回観測された。

また、この地震の南東約20kmのところ（豊後水道）で、2月16日にM3.9（最大震度2）の地震が発生した。

今回の地震の震源付近では、M4～5程度の地震が時々発生しており、最近では2005年9月4日にM4.3（最大震度3）の地震が発生している。（A）

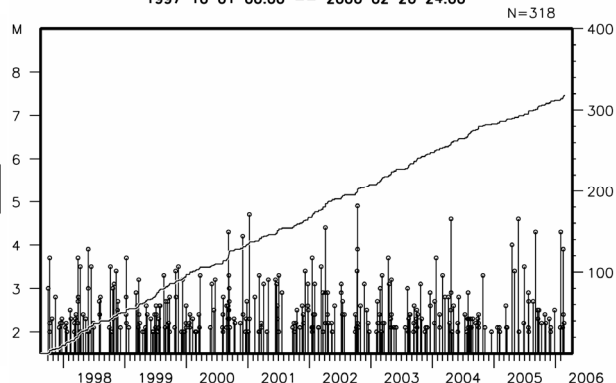
領域a内の断面図（A-B断面）

1997 10 01 00:00 -- 2006 02 26 24:00



領域b内の地震活動経過図、回数積算図

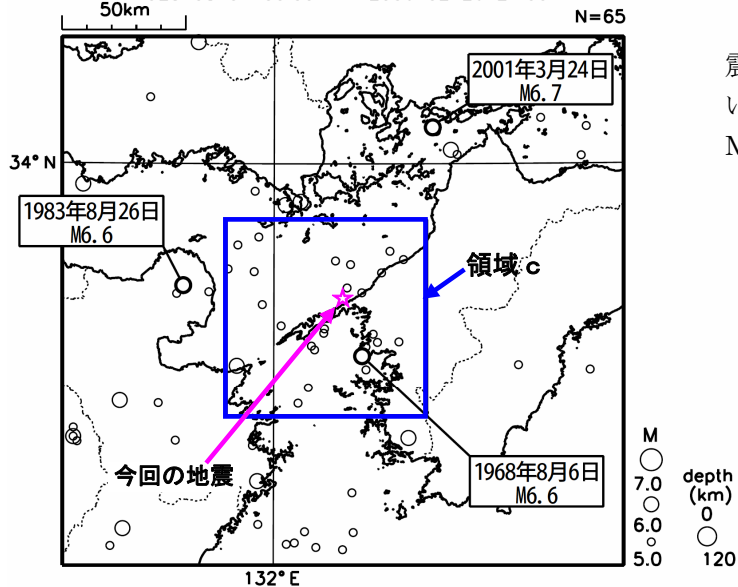
1997 10 01 00:00 -- 2006 02 26 24:00



B

震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）

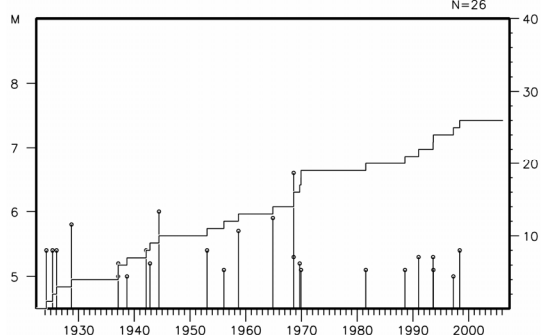
1923 08 01 00:00 -- 2006 02 26 24:00



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近では、M6前後の地震が数回発生しているが、1968年8月6日のM6.6の地震以降、M6クラスの地震は発生していない。（B）

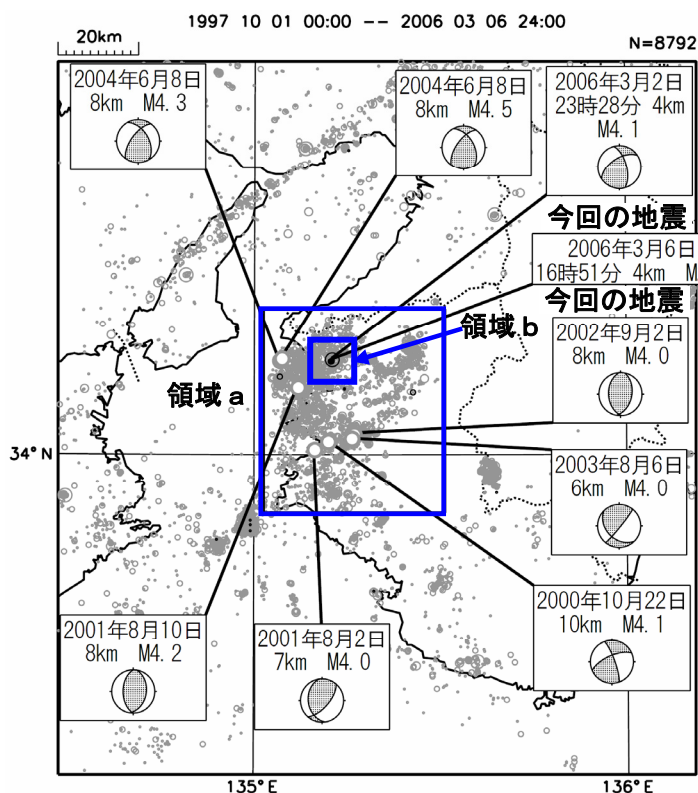
領域c内の地震活動経過図、回数積算図

1923 08 01 00:00 -- 2006 02 26 24:00



3月2日 和歌山県北部の地震

A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 1.3$ ）



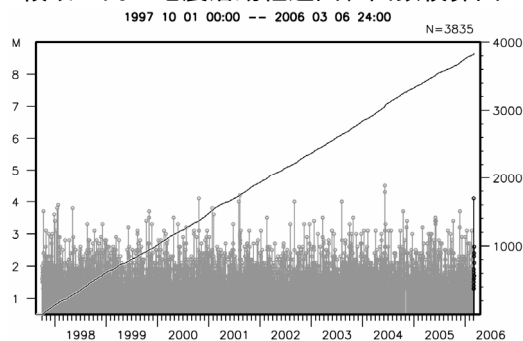
2006年3月1日以前の地震活動を淡い色で表示した。
なお、発震機構は全てP波初動解。

2006年3月2日23時28分に和歌山県北部の深さ4kmで $M 4.1$ （最大震度3）の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ型で、この付近ではよく見られるタイプである。地震活動は6日16時51分に $M 2.6$ の地震が発生し最大震度2を観測するなど活動は続いている。

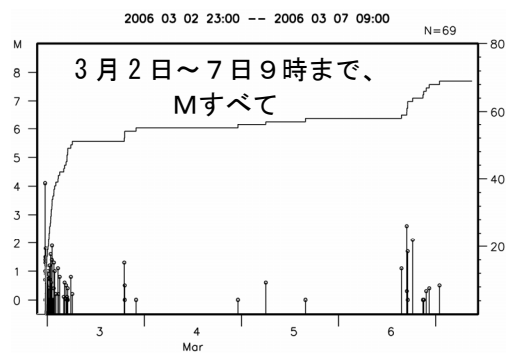
今回の地震の震源付近では普段から地震活動が活発なところである。今回の活動は活動域の北側に位置している。

1997年10月以降、この活動域の $M 4$ 以上の地震は年に1回程度の割合で発生しているが、 $M 5$ を超えるものは発生していない。最近では2004年6月8日に $M 4.5$ （最大震度3）の地震が発生している。（**A**）

領域a内の地震活動経過図、回数積算図

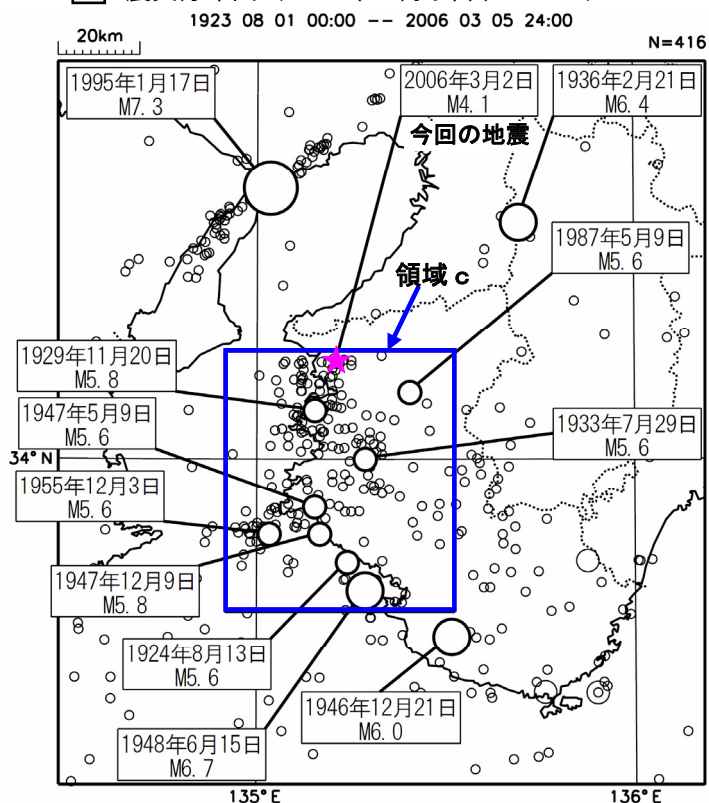


領域b内の地震活動経過図、回数積算図



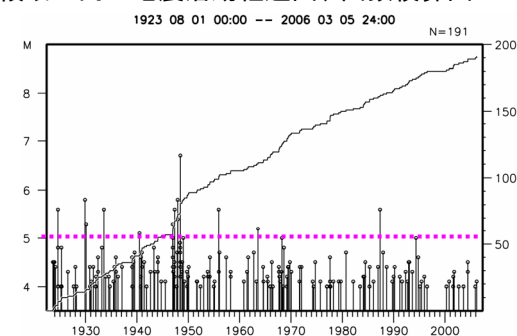
1923年8月以降の活動をみると、この付近（領域c）では1948年6月15日に $M 6.7$ の地震が発生している。（**B**）

B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

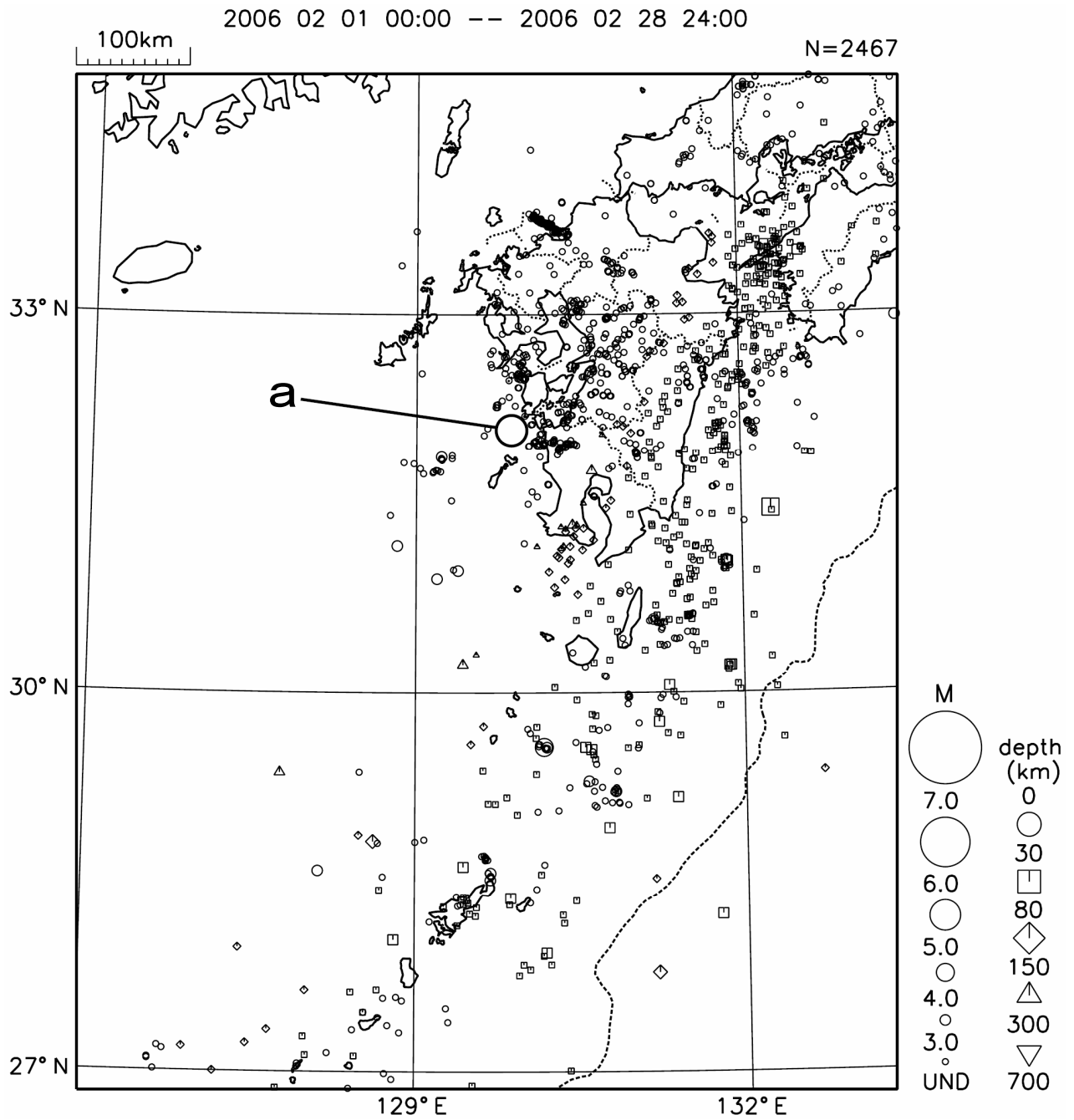


★ 今回の地震の震源

領域c内の地震活動経過図、回数積算図



九州地方

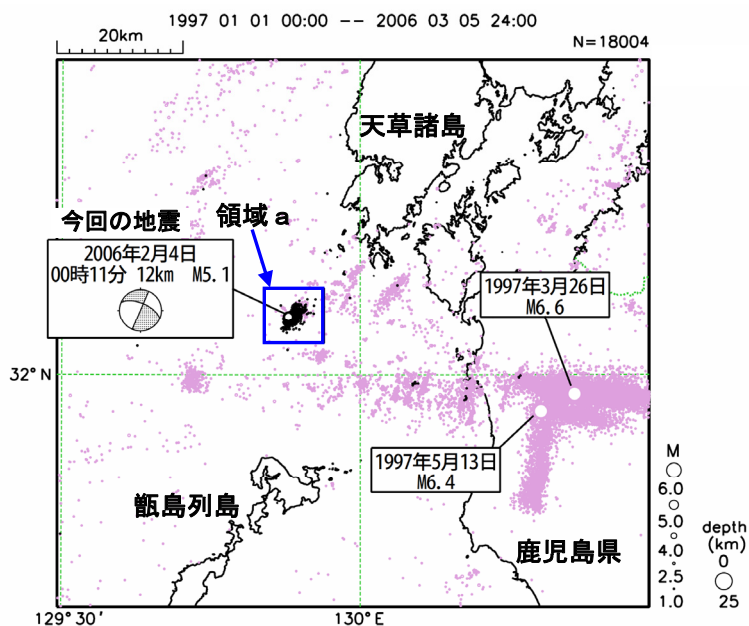


a) 2月4日00時11分に天草灘でM5.1(最大震度4)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

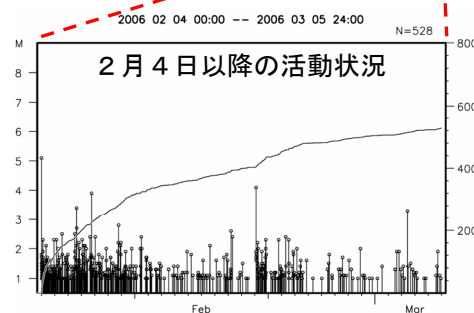
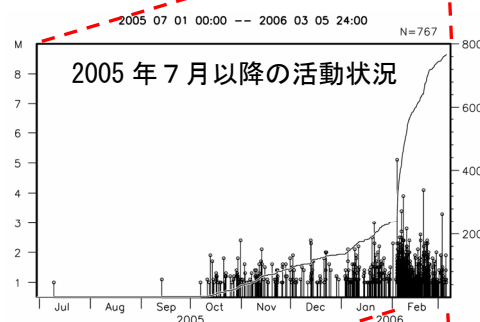
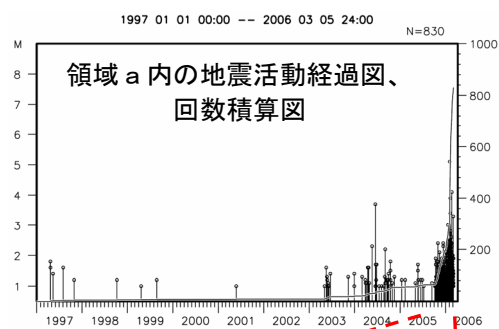
2月4日 天草灘の地震

A 震央分布図（1997年以降、 $M \geq 1.0$ ）

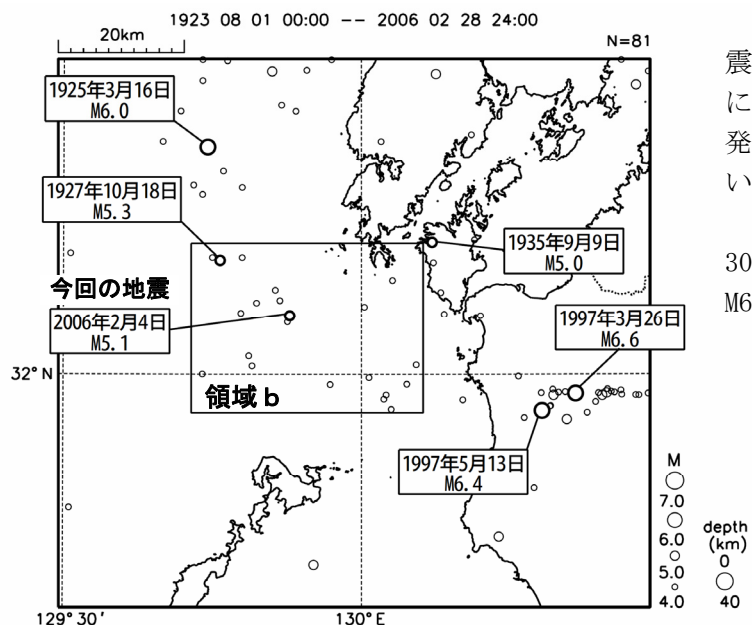


2006年2月4日以降を濃くプロットしてある

2月4日 00時11分に天草灘の深さ12kmでM5.1（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震の震源付近では、2005年10月中旬頃から小規模な地震活動が続いていた。今回の地震の後にも活動は続いている。（**A**）

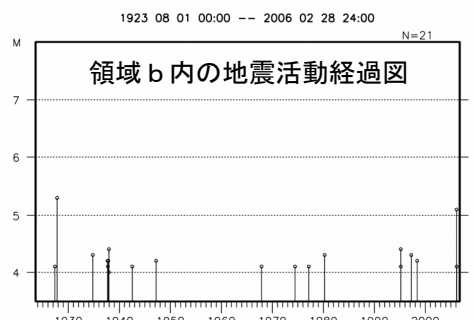


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）

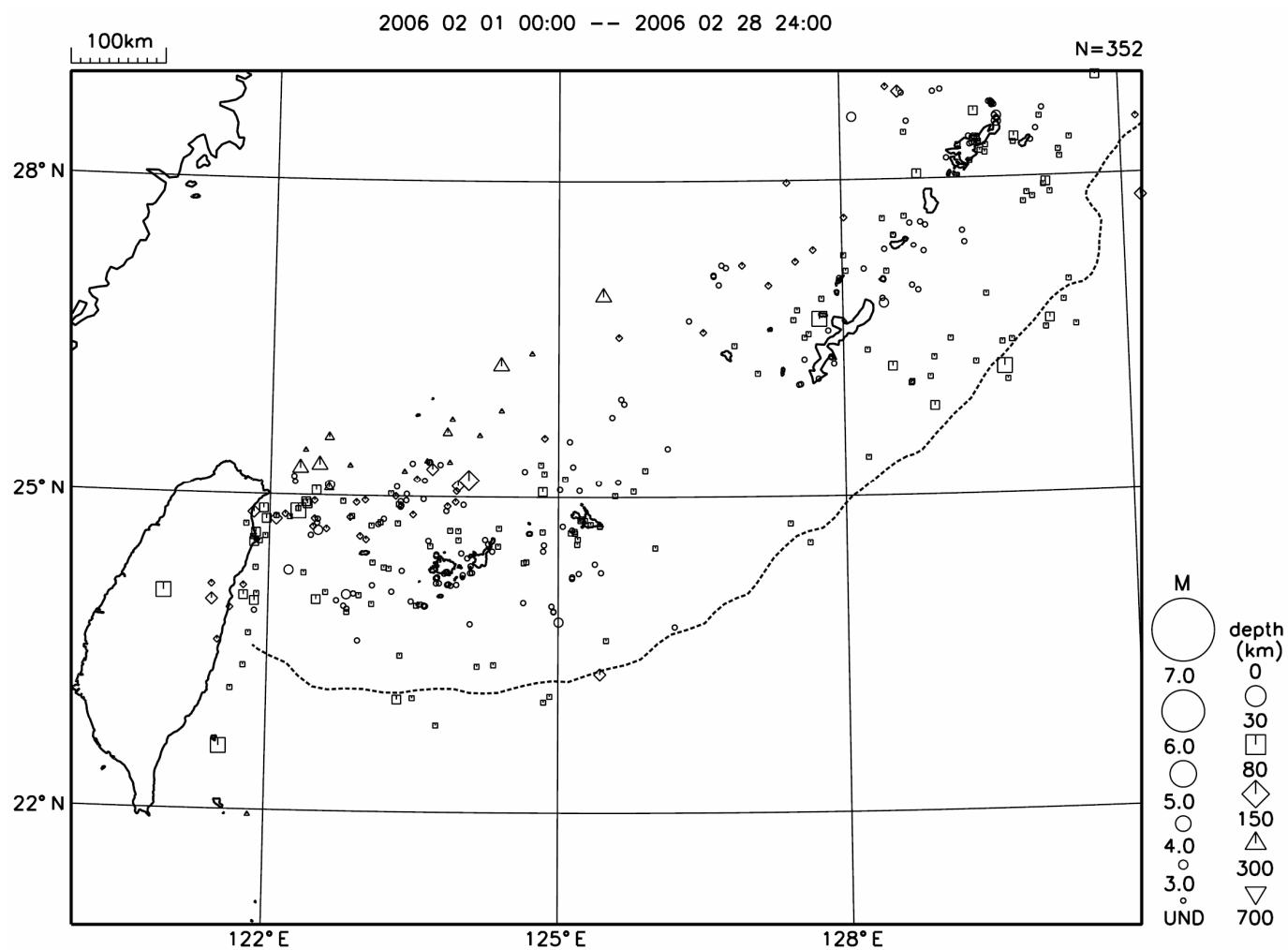


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近の海域では、1927年10月18日にM5.3の地震が発生して以降、今回の地震が発生するまでM5.0を超える地震は観測されていなかった。

なお、今回の地震の震央から北北西方向に約30km離れたところでは1925年3月16日にM6.0の地震が発生している。（**B**）



沖縄地方

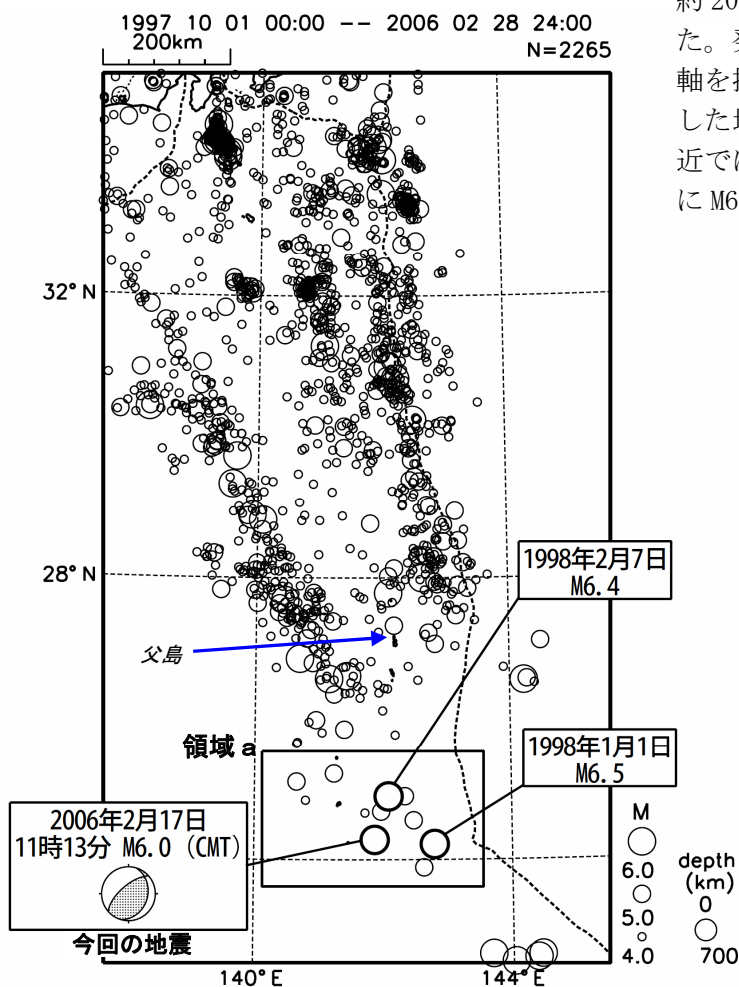


特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

2月17日 父島近海の地震

A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 4.0$ ）

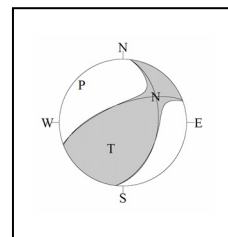
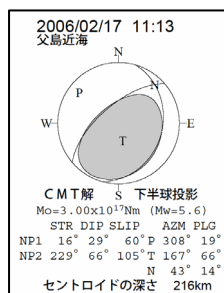


2006年2月17日11時13分に父島近海の深さ約200kmでM6.0（最大震度1）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。今回の地震の震央付近では、最近では1998年1月1日にM6.5、1998年2月7日にM6.4の地震が発生している。（**A**）

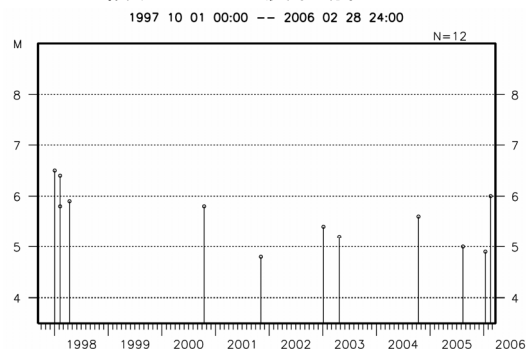
今回の地震の発震機構

（気象庁 CMT 解）

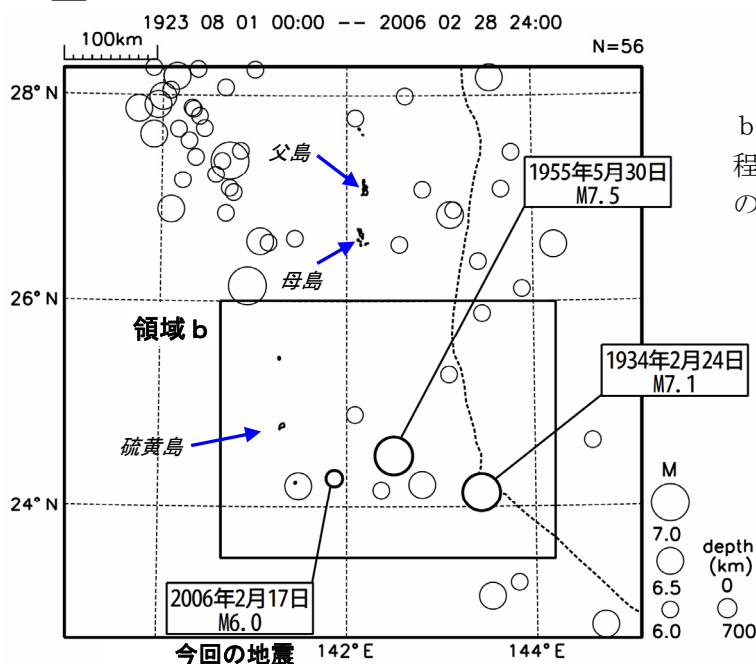
（ハーバード大学による CMT 解）



領域 a 内の地震活動経過図

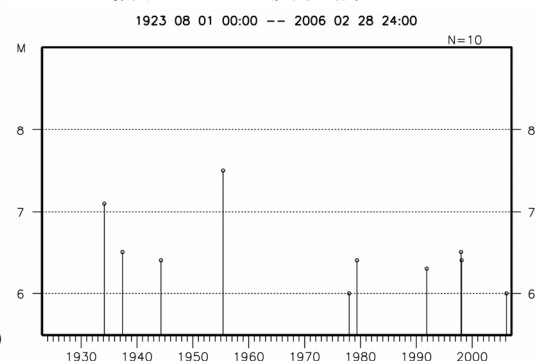


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ ）



1923年以降、今回の地震の震央付近（領域b）ではM6.0以上の地震が10年に1～2回程度発生している。最大は1955年5月30日のM7.5の地震である。（**B**）

領域 b 内の地震活動経過図



お 知 ら せ

2005 年 11 月 15 日の三陸沖の地震の震源要素について

この地震の震源要素は、精査の結果、以下のような確定値となりましたので、参考までにお知らせします。

	暫定値	→ 確定値
緯度	38 度 01.8 分	38 度 01.6 分
経度	144 度 53.3 分	144 度 56.6 分
深さ	83 k m	45 k m
マグニチュード	7.1	7.2

気象庁